

3. 対象事業実施区域及びその周囲の概況

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

(1) 気象の状況

奈良市は春日山を境に東西で気象の状況が異なり、春日山以西の奈良盆地は内陸性気候、春日山以東は内陸性気候と山岳性気候の特徴を有する。

最寄りの気象観測所である奈良地方気象台（奈良市半田開町7-1）の位置を図 3-1に、気象の概況を表 3-1に示す。平成23年～平成27年の気象の推移をみると、平均気温は14.7～15.5℃、年降水量は1,320.5～1,597.5mm、平均風速は1.4m/s、最多風向は北北東及び北となっている。

表 3-1 奈良地方気象台の気象概況

項目 年	気温					風速		最多 風向	降水量		日照 時間 h
	平均			極値		平均	最大		総量	日最大	
	日最高	日最低	平均	最高	最低						
	℃	℃	℃	℃	℃	m/s	m/s		mm	mm	
平成 23 年	20.6	10.4	15.0	36.1	-4.2	1.4	8.0	北北東	1473.0	70.5	1847.8
平成 24 年	20.2	10.3	14.7	36.3	-5.3	1.4	8.3	北北東*	1597.5	97.5	1755.9
平成 25 年	21.0	10.5	15.3	37.1	-4.1	1.4	8.9	北	1505.5	98.0	2004.2
平成 26 年	20.6	10.3	14.9	36.8	-3.7	1.4	9.3	北北東	1320.5	134.5	1854.0
平成 27 年	21.0	11.0	15.5	36.9	-3.1	1.4	8.1	北	1512.0	51.5	1783.7

注) 奈良地方気象台（奈良市半田開町7-1）での観測に基づく統計値である。

※：観測データ数が欠けているが、許容範囲であるため正常値（観測データが欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。許容範囲となるデータ数は、全体数の80%とする。

出典：気象庁ウェブサイト

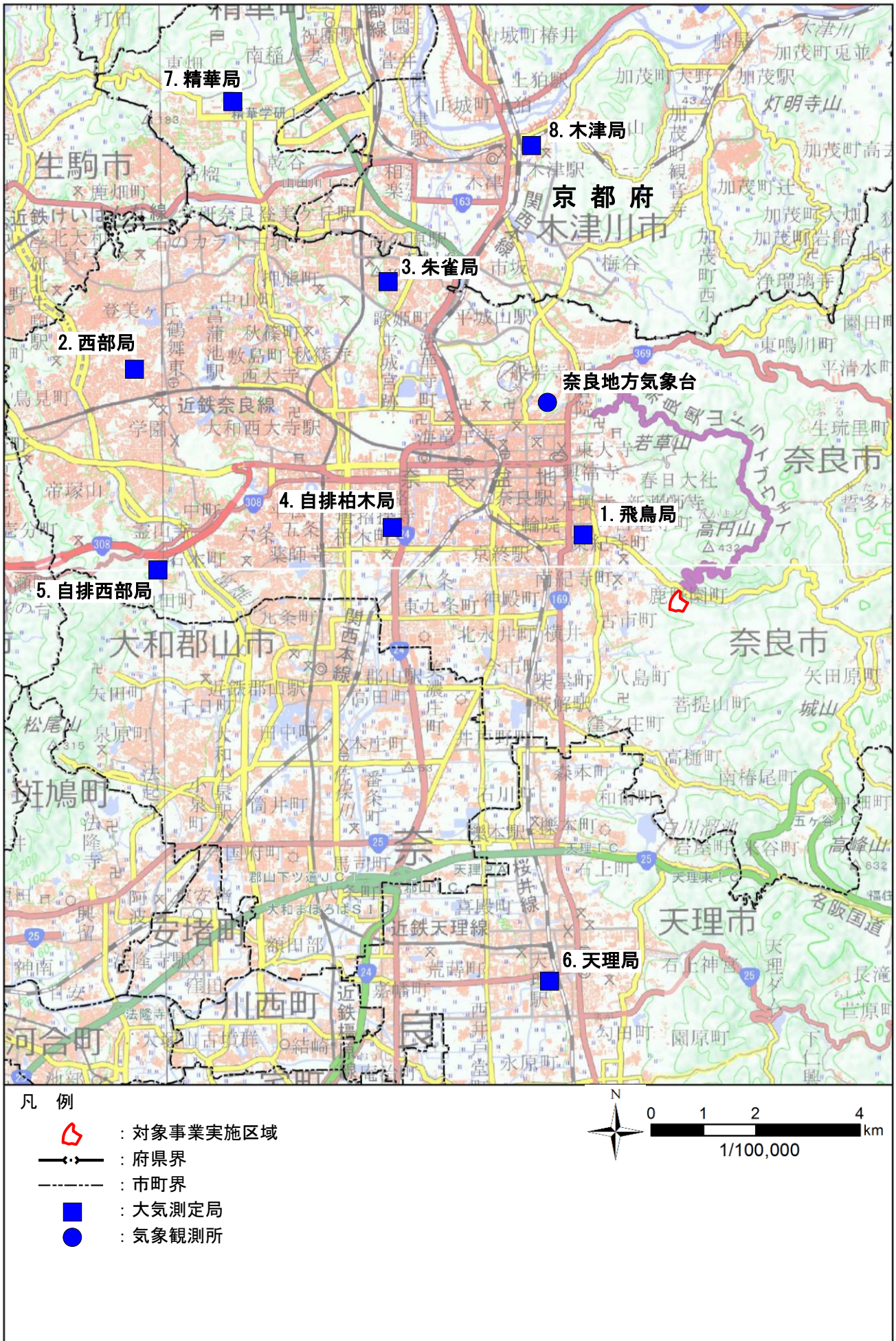


図 3-1 気象観測所及び大気測定局位置図

(2) 大気質の状況

対象事業実施区域周辺では、一般環境大気測定局6局、自動車排出ガス測定局2局の計8局で大気汚染状況の常時監視が実施されている（平成27年度現在）。これらのうち、対象事業実施区域に最も近い奈良市所管測定局は飛鳥局であり、窒素酸化物（二酸化窒素）及び浮遊粒子状物質の測定が行われている。

各測定局における測定項目等を表 3-2に、位置を図 3-1に示す。

表 3-2 各測定局の測定項目等

番号	測定局	所在地	大気質調査項目					
			窒素酸化物	浮遊粒子状物質	二酸化硫黄	光化学オキシダント	一酸化炭素	ダイオキシン類
1	飛鳥局 (※1)	奈良市飛鳥小学校 奈良市紀寺町 785	○	○	—	—	—	—
2	西部局 (※1, 3)	奈良市青和小学校 奈良市百楽園 4-1-1	○	○	○	○	○	○
3	朱雀局 (※1)	奈良市立朱雀小学校 奈良市朱雀 6-10-1	○	○	—	—	—	—
4	自排柏木局 (※1)	奈良市柏木町 519-17	●	●	—	—	—	—
5	自排西部局 (※1)	奈良市丸山二丁目 906-3	●	●	●	—	●	—
6	天理局 (※1, 3)	天理市立丹波市小学校 天理市丹波市町 180	○	○	○	○	○	○
7	精華局 (※2, 3)	京都府精華町光台 けいはんなプラザ	○	○	—	○	—	○
8	木津局 (※2)	木津川市木津上戸 木津総合庁舎	○	○	○	○	—	—

- 注) 1. 番号は図 3-1 に対応している。
 2. 「○、●」は測定を実施している項目、「—」は測定を実施していない項目を示す。
 3. ○：一般環境大気測定局、●：自動車排出ガス測定局
- 出典 ※1：「平成 26 年度環境調査報告書（大気編）」（奈良県くらし創造部ウェブサイト）
 ※2：「京都府内の大気汚染常時監視測定局の所在地及び主な測定項目一覧」
 （京都府 大気常時監視のウェブサイト）
 ※3：「平成 26 年度ダイオキシン類に係る環境調査結果」（平成 28 年 3 月、環境省）

1) 二酸化窒素

8箇所の測定局における二酸化窒素(NO₂)の測定結果を表 3-3及び表 3-4に示す。二酸化窒素の日平均値の年間98%値は、各測定局ともに環境基準を達成しており、過去5年間についても環境基準を達成している状況である。

また、二酸化窒素の年平均値の推移は、各測定局とも概ね減少傾向である。

表 3-3 二酸化窒素(NO₂)の測定結果(平成26年度)

測定局	有効測定日数	測定時間	1時間値の最高値	環境基準の評価						
				日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数※	評価
				日	%	日	%	ppm	日	
飛鳥	364	8725	0.047	0	0.0	0	0.0	0.022	0	○
西部	362	8638	0.046	0	0.0	0	0.0	0.020	0	○
朱雀	363	8640	0.040	0	0.0	0	0.0	0.018	0	○
自排柏木	361	8617	0.057	0	0.0	0	0.0	0.027	0	○
自排西部	212	5096	0.047	0	0.0	0	0.0	0.017	0	○
天理	362	8676	0.048	0	0.0	0	0.0	0.021	0	○
精華	342	8197	0.041	0	0.0	0	0.0	0.019	0	○
木津	363	8719	0.046	0	0.0	0	0.0	0.018	0	○

注) 1. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

2. 環境基準:1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。(昭和53年7月11日告示、環境庁)

※:「98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値の低い方から98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

出典:「平成26年度環境調査報告書(大気編)」(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

「平成27年度京都府環境白書」(京都府環境部ウェブサイト)

表 3-4 二酸化窒素(NO₂)の測定結果の推移

測定局	区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	日平均値の年間98%値	年平均値	日平均値の年間98%値	年平均値	日平均値の年間98%値	年平均値	日平均値の年間98%値	年平均値	日平均値の年間98%値
飛鳥	ppm	0.012	0.027	0.010	0.024	0.010	0.024	0.009	0.023	0.009	0.022
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
西部	ppm	0.011	0.026	0.011	0.024	0.009	0.022	0.009	0.023	0.008	0.020
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
朱雀	ppm	0.010	0.025	0.010	0.023	0.009	0.024	0.009	0.021	0.008	0.018
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
自排柏木	ppm	-	-	-	-	0.016	0.029	0.017	0.029	0.015	0.027
	評価	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○
自排西部	ppm	0.011	0.024	0.011	0.026	0.010	0.023	0.010	0.024	0.008	0.017
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
天理	ppm	0.012	0.024	0.011	0.023	0.011	0.023	0.010	0.022	0.010	0.021
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
精華	ppm	0.009	0.020	0.009	0.020	0.009	0.020	0.008	0.018	0.008	0.019
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
木津	ppm	0.008	0.019	0.008	0.022	0.008	0.022	0.008	0.021	0.007	0.018
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○

注) 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

出典:「平成26年度環境調査報告書(大気編)」及び過去4年間の報告書(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

「平成27年度京都府環境白書」及び過去4年間の報告書(京都府環境部ウェブサイト)

2) 浮遊粒子状物質

8箇所の測定局における浮遊粒子状物質(SPM)の測定結果を表 3-5及び表 3-6に示す。浮遊粒子状物質は、平成23年度の一部の測定局を除いて環境基準を達成している状況である。

また、浮遊粒子状物質の年平均値の推移は、各測定局とも概ね減少傾向である。

表 3-5 浮遊粒子状物質(SPM)の測定結果(平成26年度)

測定局	有効測定日数	測定時間	環境基準の評価									
			長期的評価					短期的評価				
			日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数が2日以上連続の有無とその回数		評価	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	評価
				mg/m ³	有無		回	時間	%	日		
飛鳥	362	8699	0.039	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.084	○
西部	363	8715	0.039	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.083	○
朱雀	364	8726	0.038	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.083	○
自排柏木	364	8726	0.041	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.191	○
自排西部	364	8725	0.058	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.175	○
天理	352	8457	0.042	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.089	○
精華	338	8162	0.045	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.156	○
木津	363	8703	0.049	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.088	○

注) 1. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

2. 環境基準: 1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
(昭和48年5月8日告示、環境庁)

3. 「環境基準の長期的評価による日平均値が0.01mg/m³を超えた日数」とは、日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.10mg/m³を超えた日数である。ただし、日平均値が0.10mg/m³を超えた日数が2日以上連続した延日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

出典: 「平成26年度環境調査報告書(大気編)」(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

「平成27年度京都府環境白書」(京都府環境部ウェブサイト)

表 3-6 浮遊粒子状物質 (SPM) の測定結果の推移

測定局	区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値
飛鳥	mg/m ³	0.021	0.053	0.019	0.050	0.019	0.049	0.019	0.047	0.018	0.039
	評価	-	○	-	×	-	○	-	○	-	○
西部	mg/m ³	0.018	0.053	0.014	0.034	0.017	0.042	0.017	0.045	0.017	0.039
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
朱雀	mg/m ³	0.020	0.053	0.018	0.048	0.018	0.046	0.009	0.042	0.017	0.038
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
自排柏木	mg/m ³	-	-	-	-	0.017	0.043	0.018	0.046	0.017	0.041
	評価	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○
自排西部	mg/m ³	0.020	0.055	0.018	0.048	0.017	0.044	0.019	0.047	0.018	0.039
	評価	-	○	-	×	-	○	-	○	-	○
天理	mg/m ³	0.018	0.052	0.014	0.051	0.017	0.047	0.017	0.045	0.017	0.042
	評価	-	○	-	×	-	○	-	○	-	○
精華	mg/m ³	0.021	0.064	0.019	0.049	0.019	0.050	0.020	0.058	0.019	0.045
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
木津	mg/m ³	0.020	0.055	0.019	0.044	0.019	0.050	0.019	0.048	0.020	0.049
	評価	-	○	-	×	-	○	-	○	-	○

注) 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

×の非達成は、日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続したためである。

出典：「平成26年度環境調査報告書(大気編)」及び過去4年間の報告書(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

「平成27年度京都府環境白書」及び過去4年間の報告書(京都府環境部ウェブサイト)

3) 二酸化硫黄

4箇所の測定局における二酸化硫黄(SO₂)の測定結果を表 3-7及び表 3-8に示す。二酸化硫黄は、各測定局ともに長期的評価と短期的評価の環境基準を達成しており、過去5年間についても環境基準を達成している状況である。

また、二酸化硫黄の年平均値の推移は、各測定局ともほぼ横ばいである。

表 3-7 二酸化硫黄(SO₂)の測定結果(平成26年度)

測定局	有効測定日数	測定時間	環境基準の評価									
			長期的評価					短期的評価				
			日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続の有無とその日数		評価 ○×	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	評価 ○×
				ppm	有無		回	時間	%	日		
西部	364	8729	0.007	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.015	○
自排西部	358	8601	0.006	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.015	○
天理	361	8675	0.008	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.017	○
木津	365	8745	0.006	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.013	○

注) 1. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。
 2. 環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。(昭和48年5月16日告示、環境庁)
 3. 環境基準の長期的評価による「日平均値が0.04ppmを超えた日数」とは、日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.04ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。
 出典：「平成26年度環境調査報告書(大気編)」(奈良県くらし創造部ウェブサイト)
 「平成27年度京都府環境白書」(京都府環境部ウェブサイト)

表 3-8 二酸化硫黄(SO₂)の測定結果の推移

測定局	区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値
西部	ppm	0.003	0.006	0.003	0.006	0.004	0.007	0.004	0.007	0.003	0.007
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
自排西部	ppm	0.003	0.006	0.003	0.006	0.003	0.006	0.003	0.007	0.003	0.006
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
天理	ppm	0.004	0.011	0.004	0.008	0.003	0.008	0.003	0.009	0.003	0.008
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
木津	ppm	0.003	0.006	0.003	0.005	0.003	0.005	0.003	0.006	0.003	0.006
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○

注) 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。
 出典：「平成26年度環境調査報告書(大気編)」及び過去4年間の報告書
 (奈良県くらし創造部ウェブサイト)
 「平成27年度京都府環境白書」及び過去4年間の報告書(京都府環境部ウェブサイト)

4) 一酸化炭素

3箇所の測定局における一酸化炭素(CO)の測定結果を表 3-9及び表 3-10に示す。一酸化炭素は、各測定局ともに長期的評価と短期的評価の環境基準を達成しており、過去5年間についても環境基準を達成している状況である。

また、一酸化炭素の年平均値の推移は、ほぼ横ばいである。

表 3-9 一酸化炭素(CO)の測定結果(平成26年度)

測定局	有効測定日数	測定時間	環境基準の評価									
			長期的評価					短期的評価				
			日平均値の2%除外値	日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続の有無と回数		評価	1時間値の8時間平均値が20ppmを超えた回数		日平均値が10ppmを超えた日数とその割合		1時間最高値	評価
				ppm	有無		回数	回	%	日		
日	時	ppm	有無	回数	○×	回	%	日	%	ppm	○×	
西部	362	8676	0.4	無	0	○	0	0.0	0	0.0	0.9	○
自排西部	364	8726	0.4	無	0	○	0	0.0	0	0.0	1.8	○
天理	363	8652	0.5	無	0	○	0	0.0	0	0.0	1.0	○

- 注) 1. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。
 2. 環境基準:1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。(昭和48年5月8日告示、環境庁)
 3. 「環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた延べ日数」とは、日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続した述べ日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については、除外しない。

出典:「平成26年度環境調査報告書(大気編)」(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

表 3-10 一酸化炭素(CO)の測定結果の推移

測定局	区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値	年平均値	日平均値の2%除外値
西部	ppm	0.4	0.7	0.3	0.5	0.3	0.5	0.3	0.5	0.3	0.4
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
自排西部	ppm	0.3	0.6	0.3	0.5	0.2	0.5	0.3	0.5	0.2	0.4
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○
天理	ppm	0.4	0.7	0.3	0.5	0.3	0.5	0.3	0.5	0.3	0.5
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○

注) 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

出典:「平成26年度環境調査報告書(大気編)」及び過去4年間の報告書

(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

5) 光化学オキシダント

4箇所の測定局における光化学オキシダントの測定結果を表 3-11及び表 3-12に示す。光化学オキシダントは、全測定局で環境基準を達成していない状況である。なお、光化学オキシダントについて、近年の環境基準の達成状況が低いのは、当該地域特有ではなく全国的な傾向である。

光化学オキシダントの昼間の1時間値の年平均値の推移は、ほぼ横ばいである。

表 3-11 光化学オキシダントの測定結果（平成26年度）

測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	環境基準の評価									
			昼間1時間値が0.06ppmを超えた時間数及び日数				昼間1時間値が0.12ppmを超えた時間数及び日数				昼間1時間値の最高値	評価 ○×
			時間	%	日	%	時間	%	日	%		
西部	363	5366	438	8.2	91	25.1	0	0.00	0	0.0	0.110	×
天理	365	5411	518	9.6	99	27.1	1	0.02	1	0.3	0.128	×
精華	345	5058	615	12.2	106	30.7	2	0.04	1	0.3	0.125	×
木津	365	5400	552	10.2	102	27.9	0	0.00	0	0.0	0.115	×

注) 1. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。
 2. 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。したがって、1時間値は、6時から20時まで得られることになる。
 3. 環境基準：1時間値0.06ppm以下(昭和48年5月8日告示、環境庁)
 出典：「平成26年度環境調査報告書(大気編)」(奈良県くらし創造部ウェブサイト)
 「平成27年度京都府環境白書」(京都府環境部ウェブサイト)

表 3-12 光化学オキシダントの測定結果の推移

測定局	区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		昼間1時間値の年平均値	昼間1時間値の最高値	昼間1時間値の年平均値	昼間1時間値の最高値	昼間1時間値の年平均値	昼間1時間値の最高値	昼間1時間値の年平均値	昼間1時間値の最高値	昼間1時間値の年平均値	昼間1時間値の最高値
西部	ppm	0.033	0.124	0.030	0.129	0.029	0.133	0.033	0.124	0.036	0.110
	評価	-	×	-	×	-	×	-	×	-	×
天理	ppm	0.030	0.136	0.027	0.101	0.030	0.104	0.032	0.118	0.033	0.128
	評価	-	×	-	×	-	×	-	×	-	×
精華	ppm	0.037	0.146	0.031	0.132	0.034	0.128	0.037	0.125	0.036	0.125
	評価	-	×	-	×	-	×	-	×	-	×
木津	ppm	0.036	0.135	0.030	0.130	0.034	0.118	0.036	0.118	0.036	0.115
	評価	-	×	-	×	-	×	-	×	-	×

注) 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。
 出典：「平成26年度環境調査報告書(大気編)」及び過去4年間の報告書(奈良県くらし創造部ウェブサイト)
 「平成27年度京都府環境白書」及び過去4年間の報告書(京都府環境部ウェブサイト)

6) ダイオキシン類

3箇所の測定局におけるダイオキシン類の測定結果を表 3-13に示す。ダイオキシン類は、各測定局ともに過去5年間についても環境基準を達成している状況である。

また、ダイオキシン類の年平均値の推移は、各測定局ともほぼ横ばいである。

表 3-13 ダイオキシン類の測定結果の推移

測定局	区分	年平均値				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
西部	pg-TEQ/m ³	0.024	0.028	0.037	0.016	0.014
	評価	○	○	○	○	○
天理	pg-TEQ/m ³	0.013	0.021	0.059	0.013	0.015
	評価	○	○	○	○	○
精華	pg-TEQ/m ³	0.048	0.016	0.022	0.015	0.012
	評価	○	○	○	○	○

注) 1. 環境基準：年平均値が0.6 pg-TEQ/m³以下であること。

2. 環境基準を達成している場合は○、非達成の場合は×を記載している。

出典：「平成26年度環境調査報告書（ダイオキシン類編）」及び過去4年間の報告書

(奈良県くらし創造部ウェブサイト)

「平成26年度ダイオキシン類調査結果」及び過去4年間の報告書

(京都府環境部ウェブサイト)

(3) 騒音の状況

奈良市では「環境基本法」（平成5年11月19日、法律第91号）第16条の規定に基づき、自動車交通の状況を把握するため、主要幹線道路で自動車交通環境実態調査を行っている。対象事業実施区域の周辺では、平成22年度～平成26年度に表 3-14及び図 3-2に示す4地点で調査が行われており、地点4の一般国道169号の夜間を除き、環境基準を達成している。

なお、「奈良市の環境（平成27年度、6. 公害の苦情）」（奈良市ウェブサイト）によると、奈良市における騒音の苦情は20件（平成26年度）であり、全体の苦情件数に占める割合は31.7%であった。

表 3-14 対象事業実施区域周辺の騒音測定結果

地点	路線名	測定年度	等価騒音レベル測定結果 (L_{Aeq} 、dB)	
			昼間	夜間
1	一般国道369号	平成26年度	69	65
2	主要地方道奈良名張線	平成22年度	67	58
3	一般県道木津横田線	平成22年度	70	65
4	一般国道169号	平成23年度	69	68
環境基準			70	65

注) 番号は図 3-2 に対応している。

出典：「自動車騒音の常時監視結果」（国立環境研究所）

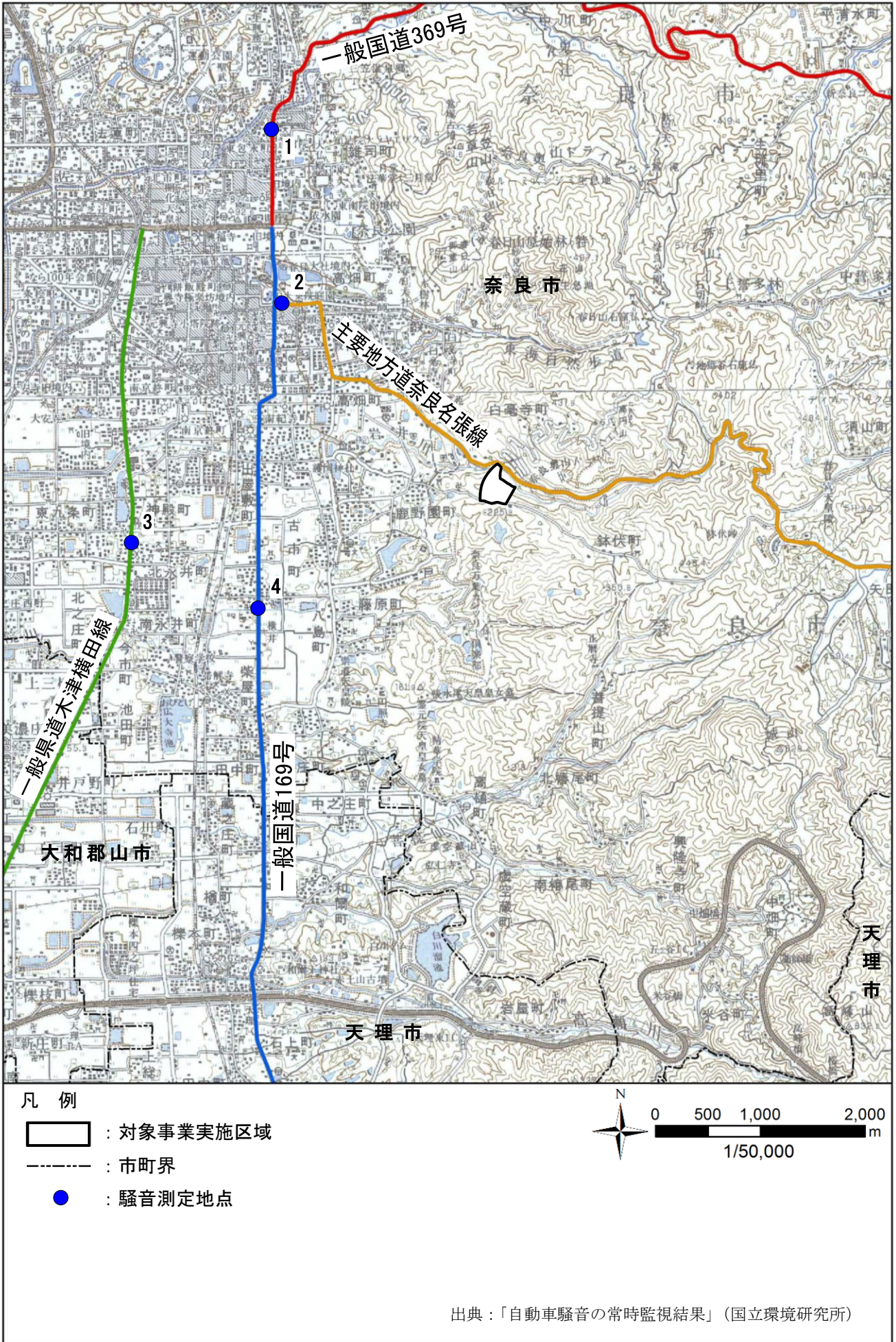


図 3-2 自動車交通環境実態調査の沿道調査地点

(4) 振動の状況

対象事業実施区域及びその周辺では、振動の測定は行われていない。

「奈良市の環境（平成27年度、6. 公害の苦情）」（奈良市ウェブサイト）によると、奈良市における振動の苦情は2件（平成26年度）であり、全体の苦情件数に占める割合は3.2%であった。

(5) 悪臭の状況

対象事業実施区域及びその周辺では、悪臭の測定は行われていない。

「奈良市の環境（平成27年度、6. 公害の苦情）」（奈良市ウェブサイト）によると、奈良市における悪臭の苦情は20件（平成26年度）であり、全体の苦情件数に占める割合は31.7%であった。

3.1.2 水環境の状況

(1) 水象の状況

対象事業実施区域及びその周辺には、大和川水系岩井川が流れるほか、西側の奈良盆地に向かって、北に能登川、南に地藏院川が流れている。

対象事業実施区域及びその周辺における主要な河川の状況を図 3-3に、近接する岩井川の表 3-15に示す。

表 3-15 主要な河川の状況

河川名	延長区間	延長(km)
岩井川	奈良市紀寺町～佐保川に合流	10.2

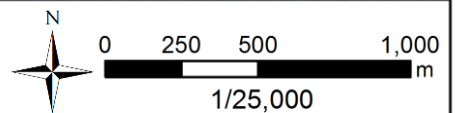
注) 平成 27 年 4 月 1 日現在

出典: 「平成 27 年度 奈良県統計年鑑」(平成 28 年 7 月、奈良県)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 河川
- : ため池等



出典：「国土数値情報ダウンロードサービス(JPGIS準拠データ)」(国土交通省国土政策局)

図 3-3 主な河川等

(2) 水質の状況

奈良県では、平成26年度に公共用水域122地点で水質汚濁の調査を実施している。これらのうち、対象事業実施区域及びその周辺の河川における水質調査結果を表 3-16及び表 3-17に、水質調査地点の位置を図 3-4に示す。

水質の生活環境項目のうち、水域類型が指定されている地点について環境基準と比較すると、水素イオン濃度（pH）、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質（SS）及び溶存酸素（D0）については環境基準を達成している。大腸菌群数については、中の川及び三条高橋で環境基準を達成していない。

水質の健康項目については、全地点で環境基準を達成している。

表 3-16 水質調査結果（平成26年度：生活環境項目）

水系名	番号	地点名 (河川名)	類型	項目	水素イオン 濃度	生物化学的 酸素要求量	浮遊物質 質量	溶存酸素	大腸菌群数	全窒素	全リン	全亜鉛	
					-	mg/L							75%値 適否
大和川水系	1	中の川 (佐保川)	B	最小	6.7	<0.5	0.5 ○	<1	7.5	17×10	0.41	0.004	-
				最大	7.7	1.1		9	11	35×10 ⁴	0.87	0.076	-
				平均	-	0.5		2	9.6	5×10 ⁴	0.59	0.025	-
				m/n	0/12	0/12		0/12	0/12	6/12	-/12	-/12	-
	2	にしき橋 (秋篠川)	C	最小	7.2	0.9	2.2 ○	1	11	1.7×10 ³	1	0.078	-
				最大	10.0	2.8		25	21	1.1×10 ⁵	3.5	0.200	-
				平均	-	1.8		5	14	3.3×10 ⁴	2.0	0.120	-
				m/n	8/12	0/12		0/12	0/12	-/12	-/12	-/12	-
	3	三條高橋 (佐保川)	B	最小	6.9	<0.5	1.0 ○	<1	9.4	2.4×10 ³	0.59	0.032	0.002
				最大	9.4	1.8		5	14	4.9×10 ⁵	1.2	0.100	0.006
				平均	-	0.8		2	11	0.93×10 ⁵	0.93	0.054	0.004
				m/n	1/12	0/12		0/12	0/12	10/12	-/12	-/12	-/4
4	菩提川流末 (菩提川)	C	最小	7.5	1.4	2.5 ○	2	7.8	3.3×10 ³	0.79	0.130	0.005	
			最大	9.1	4.2		11	15	3.5×10 ⁵	2.8	0.360	0.016	
			平均	-	2.2		6	11	9.2×10 ⁴	1.6	0.200	0.012	
			m/n	4/12	0/12		0/12	0/12	-/12	-/12	-/12	-/4	
5	菰川流末 (菰川)	-	最小	7.7	2.1	3.9 -	6	7.6	-	1.7	0.180	-	
			最大	9.4	4.9		19	18	-	3.7	0.350	-	
			平均	-	3.5		10	13	-	2.9	0.250	-	
			m/n	-/4	-/4		-/4	-/4	-	-/4	-/4	-	
6	岩井川流末 (岩井川)	-	最小	7.8	1.5	2.5 -	3	8.6	-	1.3	0.120	-	
			最大	8.3	3.7		4	12	-	4.2	0.460	-	
			平均	-	2.4		4	9.7	-	2.7	0.230	-	
			m/n	-/4	0/12		-/4	-/4	-	-/4	-/4	-	
7	秋篠川流末 (秋篠川)	C	最小	7.6	2.6	5 ○	<1	7.4	-	1.5	0.100	<0.001	
			最大	8.3	6.9		9	13	-	3.6	0.380	0.011	
			平均	-	4.3		6	10	-	2.4	0.170	0.005	
			m/n	2/12	3/12		0/12	0/12	-	-/12	-/12	-/4	
8	郡界橋 (佐保川)	C	最小	7.7	1.4	2.2 ○	3	7.9	-	1.2	0.000	0.009	
			最大	7.9	2.3		8	12	-	2.4	0.250	0.018	
			平均	-	2		6	9.6	-	1.7	0.140	0.012	
			m/n	0/4	0/4		0/4	0/4	-	-/4	-/4	-/4	
9	蟹川流末 (蟹川)	-	最小	7.8	3.2	5.3 -	9	7.9	-	0.78	0.110	-	
			最大	8.2	7.5		94	11	-	2.2	0.350	-	
			平均	-	5.3		33	9.3	-	1.5	0.260	-	
			m/n	-/4	-/4		-/4	-/4	-	-/4	-/4	-	
10	地藏院川流末 (地藏院川)	-	最小	7.6	3.2	3.9 -	6	7.7	-	1.2	0.140	-	
			最大	8.9	4.5		11	11	-	2.2	0.250	-	
			平均	-	3.8		8	9.2	-	1.5	0.200	-	
			m/n	-/4	-/4		-/4	-/4	-	-/4	-/4	-	
11	井筒橋 (佐保川)	C	最小	7.7	1.7	3.2 ○	5	7.7	-	1.1	0.120	0.004	
			最大	7.8	3.6		9	11	-	1.7	0.280	0.017	
			平均	-	2.7		7	9.2	-	1.4	0.190	0.011	
			m/n	0/4	0/4		0/4	0/4	-	-/4	-/4	-/4	
12	高瀬川流末 (高瀬川)	-	最小	7.4	1.7	4.2 -	7	4.1	-	0.7	0.110	-	
			最大	7.6	4.7		60	10	-	1	0.450	-	
			平均	-	3.1		28	6.4	-	0.89	0.260	-	
			m/n	-/4	-/4		-/4	-/4	-	-/4	-/4	-	
環境 基準	河川B類型				6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L 以下	5mg/L以上	5000 MPN/100mL 以下	-	-	-	
	河川C類型				6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L 以下	5mg/L以上	-	-	-	-	

- 注) 1. 番号は図 3-4と対応している。
 2. m/n m：環境基準を超える検定数（n：総検体数、“-”については環境基準が設定されていないことを示す。）
 3. 75%値：n個の測定値を小さいものから順に並べたときに、n×0.75番目にあたる測定値
 4. 表中の“-”は、測定項目ではない、もしくは出典に記載がないこと、又は環境基準が設定されていないことを示す。
 5. □ の地点は環境基準点を示す。

出典：「平成 26 年度環境調査報告書（水質編）」（奈良県くらし創造部ウェブサイト）

表 3-17 水質調査結果（平成26年度：健康項目）

単位：mg/L

項目	調査地点					環境基準
	佐保川(1)	佐保川(2)	佐保川(2)	菩提川	秋篠川	
	三条高橋	郡界橋	井筒橋	菩提川流末	秋篠川流末	
カドミウム	<0.0003	-	-	0.0007	<0.0003	0.003 以下
シアン	ND	-	-	ND	ND	検出されないこと。
鉛	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
六価クロム	<0.01	-	-	<0.01	<0.01	0.05 以下
砒素	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01 以下
総水銀	<0.0005	-	-	<0.0005	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	-	-	-	-	-	検出されないこと。
PCB	-	-	-	-	-	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.01 以下
テトラクロロエチレン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0004	-	-	<0.0004	<0.0004	0.002以下
チウラム	<0.001	-	-	<0.001	<0.001	0.006以下
シマジン	<0.0003	-	-	<0.0003	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	-	-	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	<0.0002	-	-	<0.0002	<0.0002	0.01 以下
セレン	<0.002	-	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素	0.60	1.1	0.73	0.56	1.0	10 以下
フッ素	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.8 以下
ホウ素	0.03	0.03	0.03	0.04	0.05	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	-	-	<0.005	<0.005	0.05 以下

注) 1. 数値の左にある「<」は定量下限値未満を示す。また、ND は不検出であることを示す。

2. 表中の“-”は、測定項目ではない、もしくは出典に記載がないことを示す。

出典：「平成 26 年度環境調査報告書（水質編）」（奈良県くらし創造部ウェブサイト）

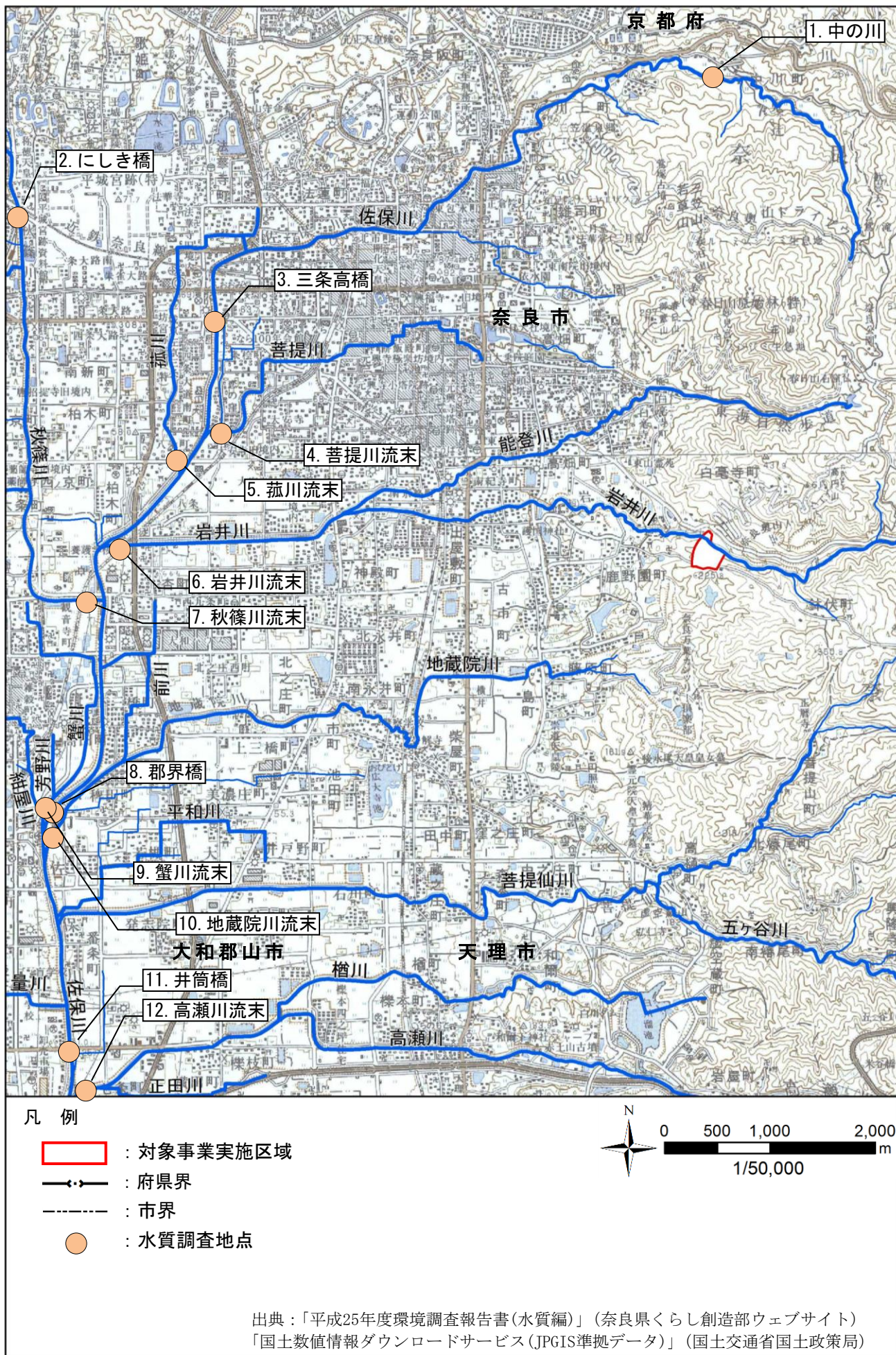


図 3-4 水質調査地点

3.1.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

対象事業実施区域周辺の土壌図を図 3-5に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、乾性褐色森林土壌が大部分を占めている。

(2) 地盤の状況

「全国地盤環境情報ディレクトリ」（平成26年度版、環境省）によると、奈良県では、北部に第四系(※)と呼ばれる地層が分布しているが、平成26年度までに、地盤沈下は認められない。

また、奈良県では、「環境基本条例」第6条において、事業者が事業活動を行うに当たっては、公害（地盤沈下を含む）を防止し、または自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずる責務について規定している。

(※) 第四系とは、第四紀（現在から約 170 万年前に相当する年代の呼び方）に堆積した地層をいい、地質学的な年代の呼び方で、年代が新しいため一般に固結しておらず軟弱な地層をいう。

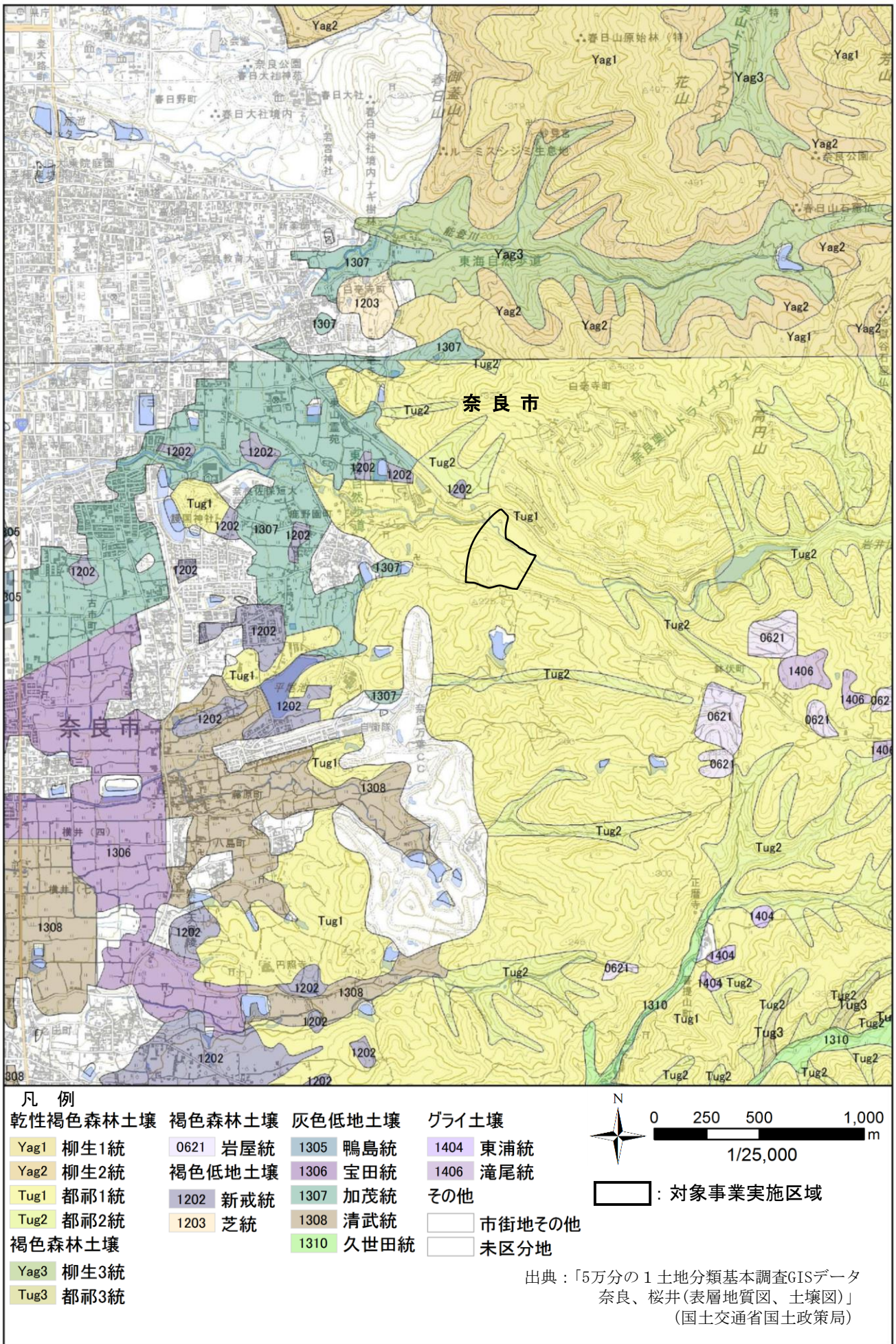


図 3-5 対象事業実施区域周辺の土壌図

3.1.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

対象事業実施区域周辺の地形分類図を図 3-6に示す。

対象事業実施区域及びその周辺には山地斜面等が広く分布し、一部に麓層面及び崖錐や、砂礫台地（更新世断層）が分布している。

(2) 地質の状況

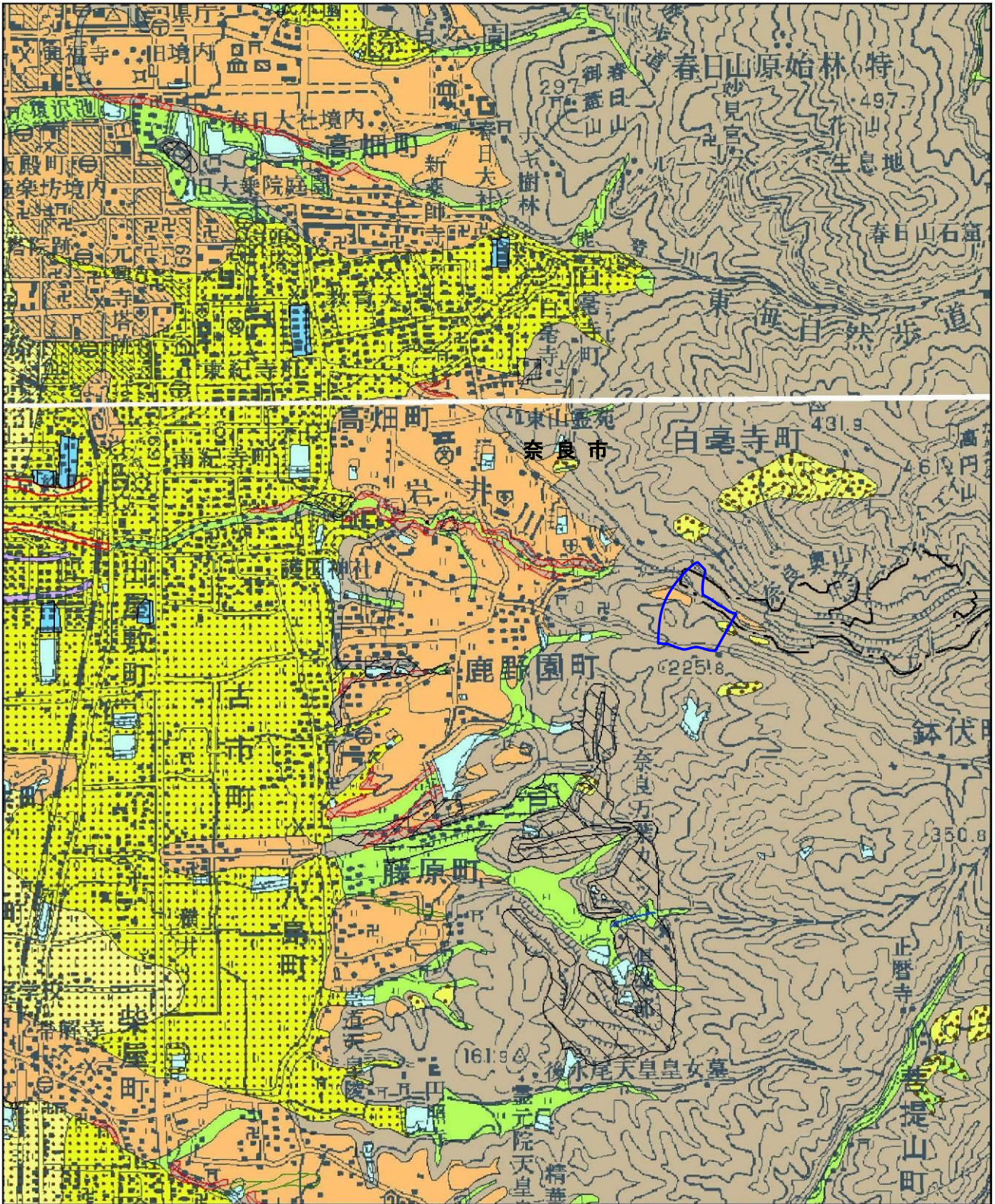
対象事業実施区域周辺の地質図を図 3-7に示す。

対象事業実施区域の大部分には藤原層群虚空蔵累層の「砂岩礫岩相」が分布しており、北側の一部には領家変成岩類が分布している。

(3) 重要な地形・地質

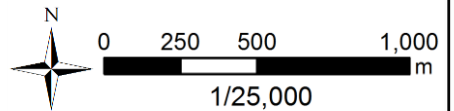
「日本の典型地形 都道府県別一覧」（国土地理院ホームページ）によると、対象事業実施区域周辺では、身近に観察できる典型的な地形は分布していない。

また、「日本の地形レッドデータブック 第1集 新装版」（平成12年、古今書院）によると、対象事業実施区域周辺では、保護上重要な地形は確認されていない。



凡例

: 対象事業実施区域



出典：「土地分類基本調査図(土地履歴調査) 奈良 人工地形及び自然地形分類図」
 (平成25年3月、国土交通省 国土政策局)
 「土地分類基本調査図(土地履歴調査) 桜井 人工地形及び自然地形分類図」
 (平成25年3月、国土交通省 国土政策局)

図 3-6(1) 対象事業実施区域周辺の地形分類図

凡例 Legend

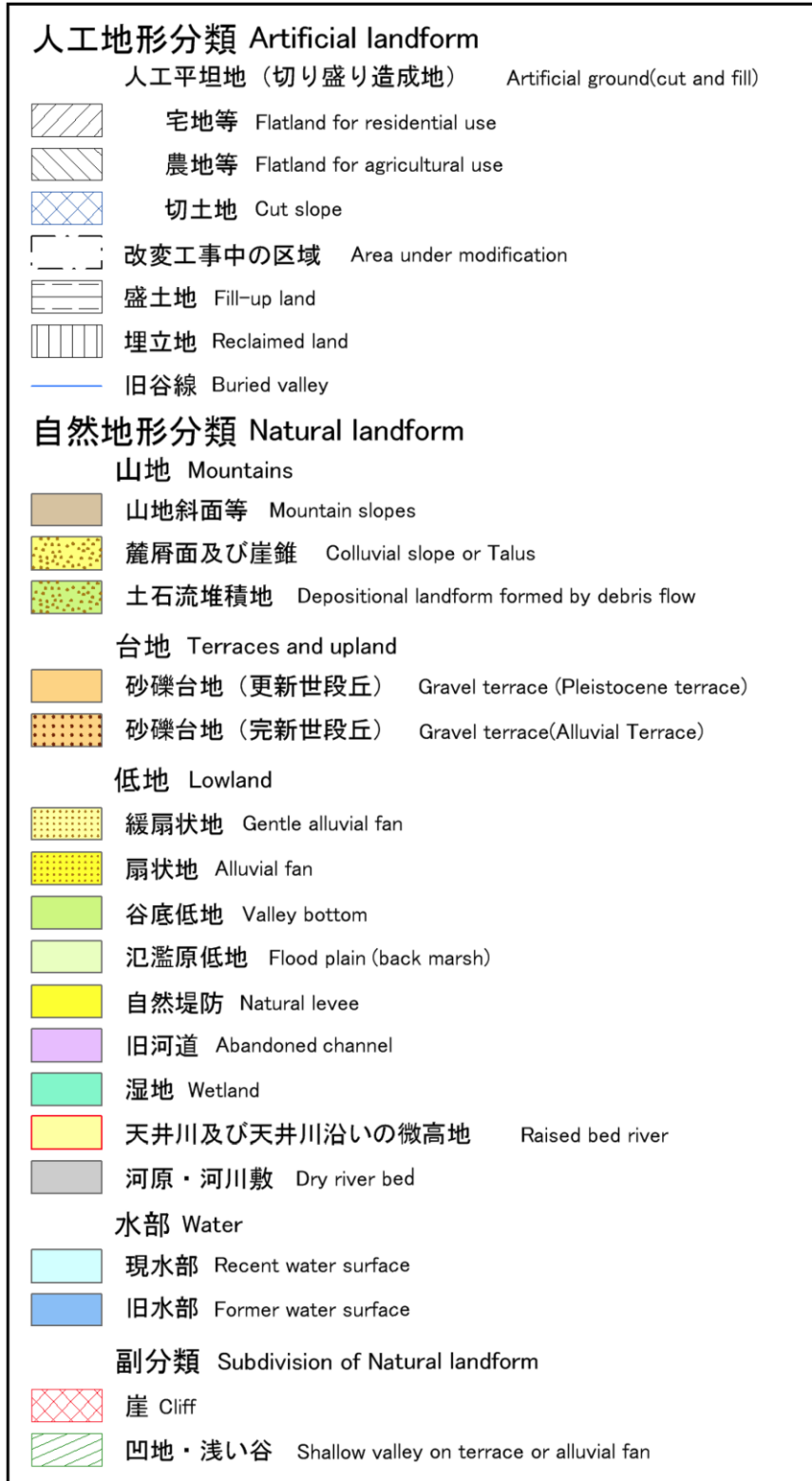


図 3-6(2) 対象事業実施区域周辺の地形分類図（凡例）

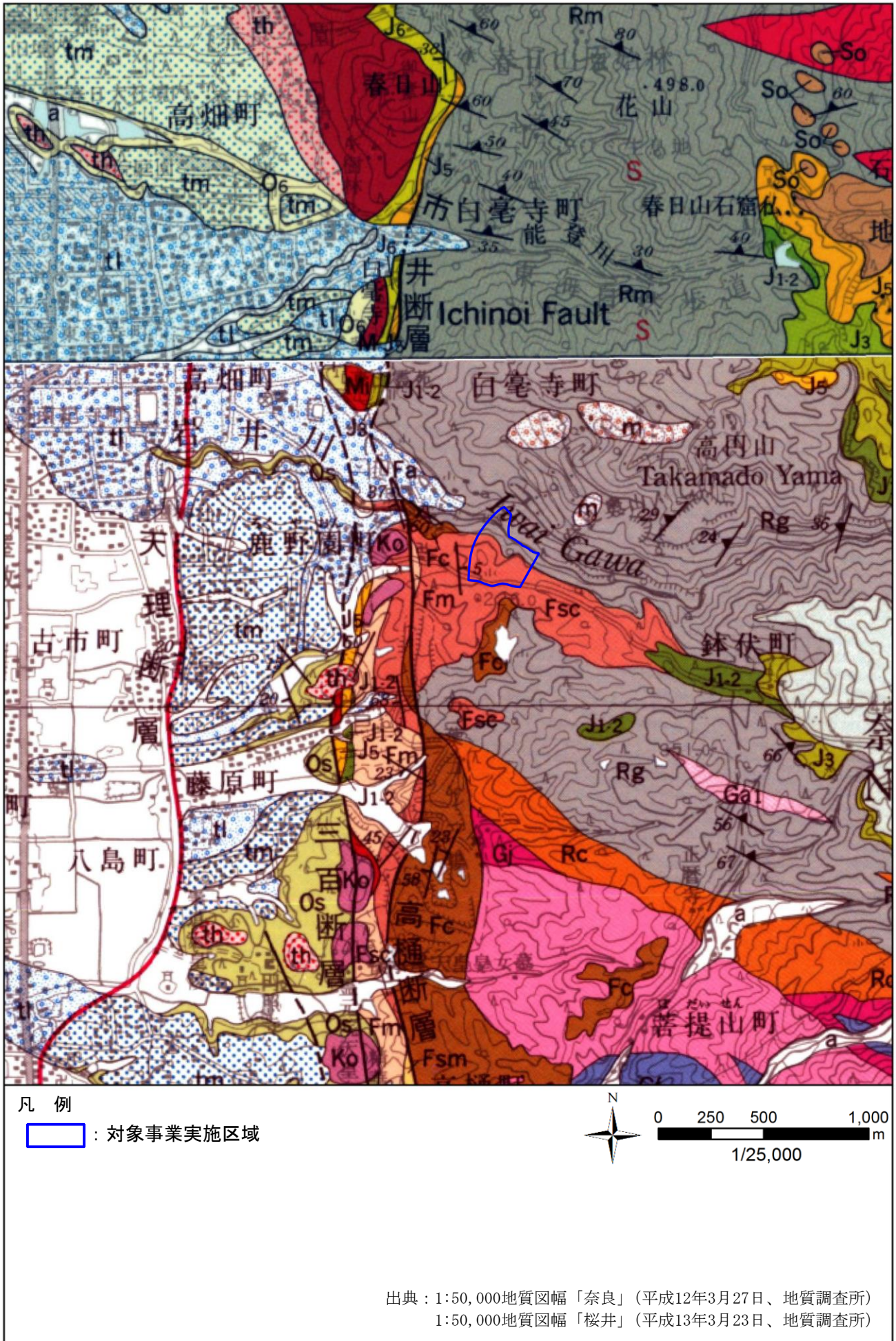


図 3-7(1) 対象事業実施区域周辺の地質図



図 3-7(2) 対象事業実施区域周辺の地質図(凡例)(奈良)

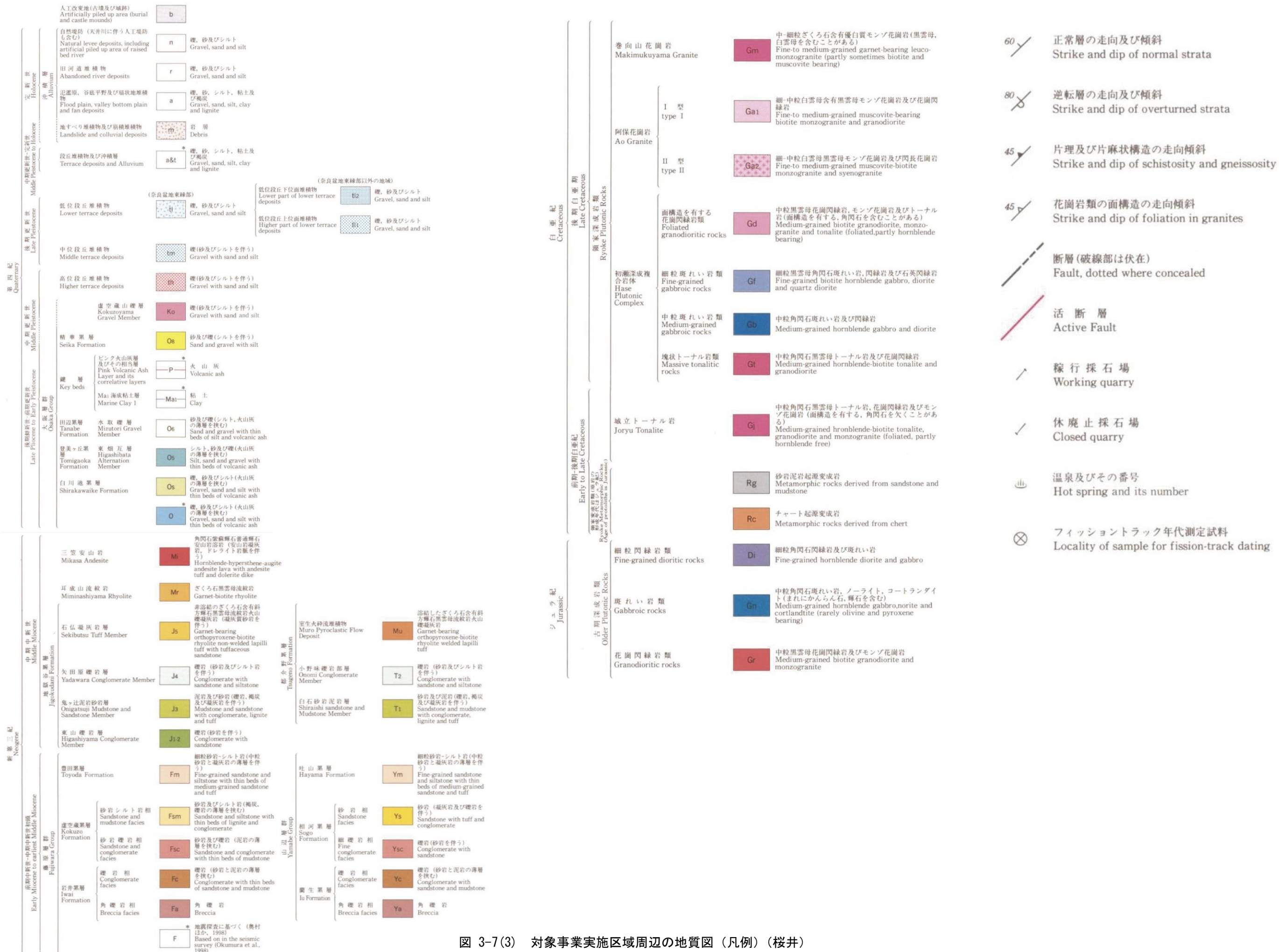


図 3-7(3) 対象事業実施区域周辺の地質図(凡例)(桜井)

3.1.5 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物

奈良県では、「本県に生息する野生生物の現況を調査し、貴重な野生生物種を選定・評価することにより、地域の自然特性を明らかにし、県民の郷土愛の高揚や自然保護思想の普及啓発を図る」という目的で、「大切にしたい奈良県の野生動植物－奈良県版レッドデータブック」が作成されている。同書は、「奈良県環境資源データブック」（奈良県、平成10年）や奈良県史をはじめ、数多くの文献情報に基づき整理されており、県下における希少性または希少性以外（県民に親しまれている等）の観点から「大切にしたい動物」が選定されている。

このため、「奈良県版レッドデータブック」において掲載されている種を「重要な動物」として、種毎の「県内の分布地」をもとに、奈良市に記録がある種を抽出し、表 3-18に整理した。

また、自然環境保全基礎調査(環境省)による重要な動植物の分布図を図 3-8に、この凡例を表 3-19に示す。これによると、対象事業実施区域に重要な動植物の生息分布情報はないが、対象事業実施区域周辺では西側でミズバチ、北側及び東側でハルゼミ等の重要な動植物の分布情報がある。

表 3-18(1) 奈良市に記録がある重要な動物

分類	カテゴリー	種名
哺乳類	絶滅危惧種	カワネズミ、テングコウモリ
	希少種	キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、カヤネズミ
	郷土種	奈良のシカ（ニホンジカ）
鳥類	絶滅寸前種	ウズラ、ブッポウソウ
	絶滅危惧種	ヨシゴイ、ミゾゴイ、トモエガモ、ミサゴ、ハチクマ、サシバ、クマタカ、クイナ、ヒクイナ、コアジサシ、ジュウイチ、トラフズク、コミミズク、コノハズク、オオコノハズク、ヨタカ、アカショウビン、サンショウクイ、カヤクグリ、コヨシキリ、エゾムシクイ、キクイタダキ、キバシリ、ホオアカ、アオジ、クロジ
	希少種	カンムリカイツブリ、ヨシガモ、ミコアイサ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、タマシギ、イカルチドリ、タゲリ、ハマシギ、クサシギ、タカブシギ、イソシギ、ヤマシギ、タシギ、アオバト、カッコウ、ツツドリ、アオバズク、フクロウ、ヒメアマツバメ、ヤマセミ、アリスイ、アカゲラ、オオアカゲラ、ピンズイ、カワガラス、コルリ、ルリビタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、セッカ、キビタキ、コサメビタキ、サンコウチョウ、コガラ、ゴジュウカラ、ミヤマホオジロ、オオジュリン
	情報不足種	ササゴイ、チュウサギ、サメビタキ
	注目種	ゴイサギ、オンドリ
	郷土種	イカル

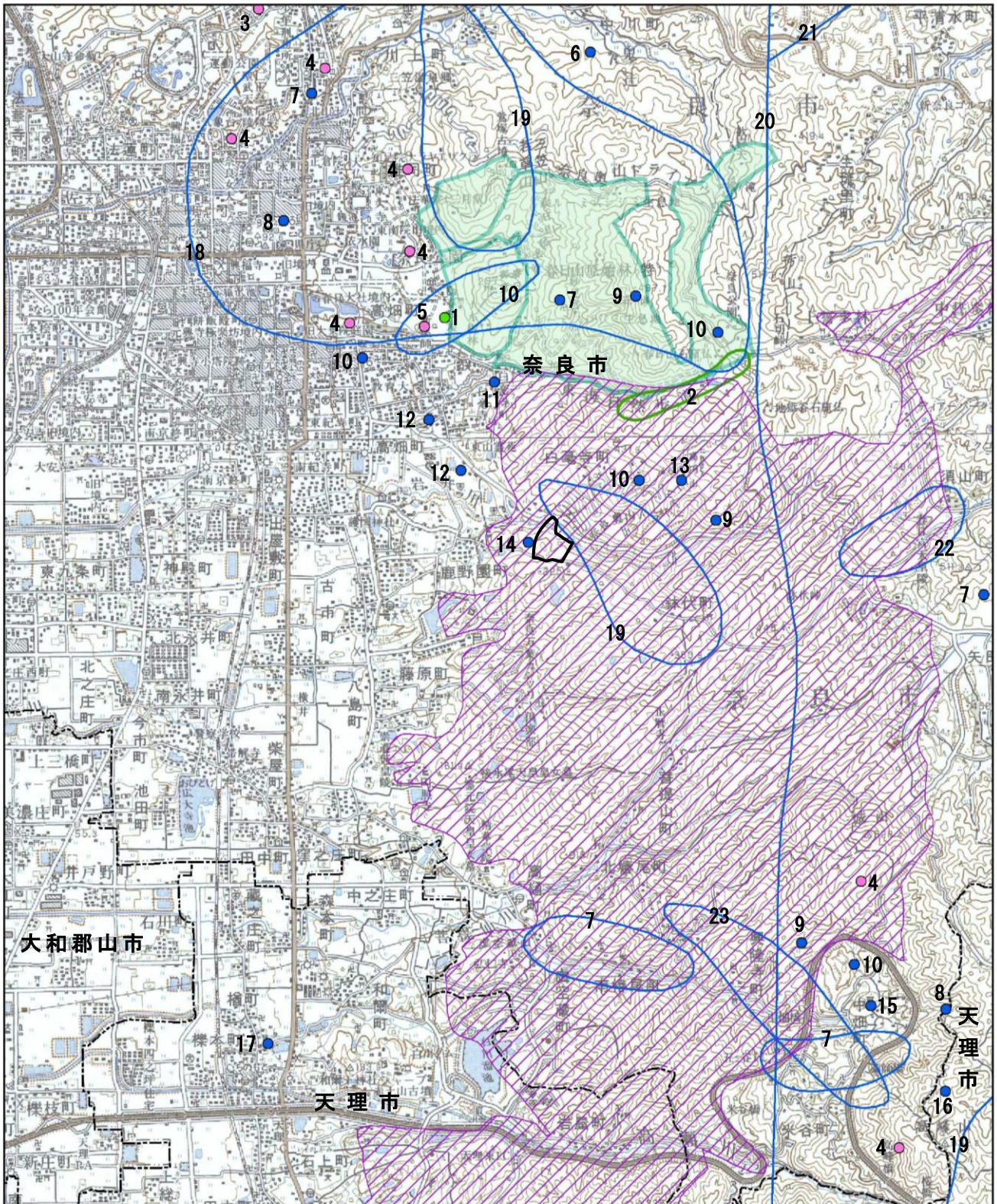
- 注) 1. 出典資料における種毎の「県内の分布地」から、奈良市における確認種を抽出した結果である。
 2. 情報不足種とは、現時点ではランクを判定するだけの情報が得られていないが、今後の情報蓄積に伴って上位のカテゴリー（絶滅種、絶滅寸前種、絶滅危惧種、希少種）に移行する可能性がある種である。
 3. 郷土種とは、県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種である。

出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編)」(平成18年、奈良県)
 「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編)」(平成20年、奈良県)

表 3-18(2) 奈良市に記録がある重要な動物

分類	カテゴリー	種名
爬虫類	絶滅危惧種	ニホンイシガメ
	希少種	アオダイショウ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
	注目種	ニホンヤモリ
両生類	絶滅寸前種	モリアオガエル
	絶滅危惧種	ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル
魚類	絶滅寸前種	アユ（河川遡上個体）、ニッポンバラタナゴ
	絶滅危惧種	スナヤツメ、カワヒガイ、ゼゼラ、ズナガニゴイ、ヤリタナゴ、アカザ
	希少種	ヌマムツ、ムギツク、イトモロコ、ギギ、メダカ、カワヨシノボリ、ウキゴリ
	郷土種	ワタカ
昆虫類	絶滅寸前種	マダラナニワトトンボ、トゲナベブタムシ、ギンボシツツトビケラ、ルーミスシジミ、シルビアシジミ本州～種子島亜種、オオウラギンヒョウモン
	絶滅危惧種	モートンイトトンボ、コバネアオイトトンボ、オオサカサナエ、ハネビロエゾトンボ、ハッチョウトンボ、ナニワトトンボ、キトンボ、クロツヤコオロギ、ギンイチモンジセセリ、ウラゴマダラシジミ、ウラナミアカシジミ、ダイセンシジミ（ウラムスジシジミ）、ギンボシスズメ、カバフキシタバ
	希少種	キハダヒラタカゲロウ、ベニイトトンボ、ムカシヤンマ、メガネサナエ、ホンサナエ、キイロサナエ、アオサナエ、ヒメサナエ、サラサヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、キイロヤマトンボ、トラフトンボ、ヨツボシトンボ、ミヤマアカネ、ネキトンボ、キョウトゴキブリ、ヒナカマキリ、カヤキリ、クツワムシ、クチナガコオロギ、ショウリョウバッタモドキ、ヒメハルゼミ、エゾゼミ、タケウチトゲアワフキ、イトアメンボ、ヤスマツアメンボ、コオイムシ、オオコオイムシ、クチキゴミムシ、ヒロムネナガゴミムシ、メダカオオキバハネカクシ、ヤマトエンマコガネ、オオムツボシタマムシ、クロマダラタマムシ、クロコモンタマムシ西日本亜種（ヤノコモンタマムシ）、オオウバタマコメツキ、ツマグロコメツキ、ヒゲナガキバケシキスイ、クロヘリメツブテントウ、イセテントウ、ヘリハネムシ、オニユミアシゴミムシダマシ、オニホソコバネカミキリ、キイロミヤマカミキリ、エゾトラカミキリ、アカオニミツギリゾウムシ、ムラサキトビケラ、アミメトビケラ、フタスジキソトビケラ、スジボソヤマキチョウ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ウラナミジャノメ本土亜種、オオシモフリスズメ、シロシタバ、ワモンキシタバ、アサマキシタバ
	情報不足種	ハタケノウマオイ、アトキクロヒメジョウカイモドキ、オオツカヒメテントウ、ホシガガンボモドキ
	注目種	タイワンクツワムシ、クロバイトガリキジラミ、シロバイトガリキジラミ、オオヒメゲンゴロウ、ムネアカセンチコガネ、アカマダラセンチコガネ、ヨツバコガネ、クロカナブン、ミカドテントウ、クロサワヒメコバネカミキリ、ネクイハムシ（ガガブタネクイハムシ）、ツヤネクイハムシ、フサヒメヒゲナガゾウムシ、ジャコウアゲハ本土亜種
郷土種	オオセンチコガネ（ルリセンチコガネ）、ヤマトタマムシ、ゲンジボタル（大仏ボタル）、オキナワルリチラシ本土亜種	

注) 1. 出典資料における種毎の「県内の分布地」から、奈良市における確認種を抽出した結果である。
 2. 情報不足種とは、現時点ではランクを判定するだけの情報が得られていないが、今後の情報蓄積に伴って上位のカテゴリー（絶滅種、絶滅寸前種、絶滅危惧種、希少種）に移行する可能性がある種である。
 3. 郷土種とは、県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種である。
 出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編)」(平成 18 年、奈良県)
 「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編)」(平成 20 年、奈良県)



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 市界
- : 特定植物群落
- : 大和青垣国定公園

〈特定植物群落〉



- A : 春日山原始林
- B : 奈良市若草山草原群落
- C : 春日大社御蓋山原始林



0 500 1,000 2,000
1/50,000
m

出典：「奈良県動植物分布図（第2回自然環境保全基礎調査）」（昭和56年、環境庁）
「奈良県自然環境情報図（第4回自然環境保全基礎調査）」（平成7年、環境庁）
「奈良県自然公園等区域図」（平成17年3月、奈良県）

図 3-8 重要な動植物分布図

表 3-19 重要な動植物分布図（凡例）

種別	番号	内容
巨樹 巨木林 (並木・樹林)	●	1 奈良市 クスノキ
	○	2 奈良市 春日山原生林 スギ
		奈良市 春日山原生林 スギ
		奈良市 春日山原生林 滝坂の道 スギ
		奈良市 春日山原生林 滝坂の道 スギ
		奈良市 春日山原生林 滝坂の道 スギ
両生類 は虫類	●	3 ダルマガエル(基亜種)
	4 カスミサンショウウオ	
	5 モリアオガエル	
昆虫類	● ○	6 ホソハンミョウ
		7 ゲンジボタル
		8 タガメ
		9 オオムラサキ
		10 ムカシヤンマ
		11 ナニワトンボ、モリヤママドガ
		12 キイロサナエ
		13 ミヤマカラスアゲハ
		14 ミズバチ
		15 トゲナナフシ
		16 ゲンゴロウ
		17 オオクワガタ
		18 サラサヤンマ、ヒメカマキリ、オオゴキブリ、トゲナナフシ、クチキコオロギ、アオマツムシ、シブイロカヤキリモドキ、タイワンクツワムシ、ヨコヅナツチカメムシ、ヨコヅナサシガメ、ナベブタムシ、ヒメハルゼミ、ヒメカマキリモドキ、ラクダムシ、ムラサキトビケラ、ギンイチモンジセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ルーミスジミ、ムラサキツバメ、イシガケチョウ、サツマニシキ、ムラサキシタバ、オオツバメエダシヤク、クチキゴミムシ、イワワキオサムシ、ゲンゴロウ、オオクワガタ、ルリセンチコガネ、ヤマトエンマコガネ、コツヤマグソコガネ、オビモンマグソコガネ、ヒメコマグソコガネ、チャグロマグソコガネ、クロツブマグソコガネ、オオチャイロハナムグリ、オオウバタマコメツキ、トゲフタオタマムシ、オオムツボシタマムシ、オオオビハナノミ、ベーツヤサカミキリ、ヤマトシロオビトラカミキリ、クビアカモモトホソカミキリ、トワダオオカ
		19 ハルゼミ
		20 アキタクロナガオサムシ
		21 ヤマトオサムシ
		22 ゲンゴロウ、オオクワガタ
	23 ウラジロミドリシジミ	

(2) 植物

「奈良県版レッドデータブック」において、奈良市に記録がある重要な植物群落を表 3-20に示す。また、種毎の「県内の分布地」をもとに、奈良市に記録がある重要な植物を表 3-21に整理した。

対象事業実施区域周辺における現存植生図を図 3-9に示す。

対象事業実施区域は大部分がアベマキーコナラ群集となっており、北側の一部が路傍・空地雑草群落となっている。

表 3-20 奈良市に記録がある重要な植物群落

危険度	種名
消滅のおそれ大	八柱神社のアカガシ群集、春日山原始林のコジイ群落、春日大社のナギ群落
消滅寸前・郷土群落	若草山のイトススキ群落
要注意	春日山原始林のツクバネガシ群落

出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編)」
(平成 20 年、奈良県)

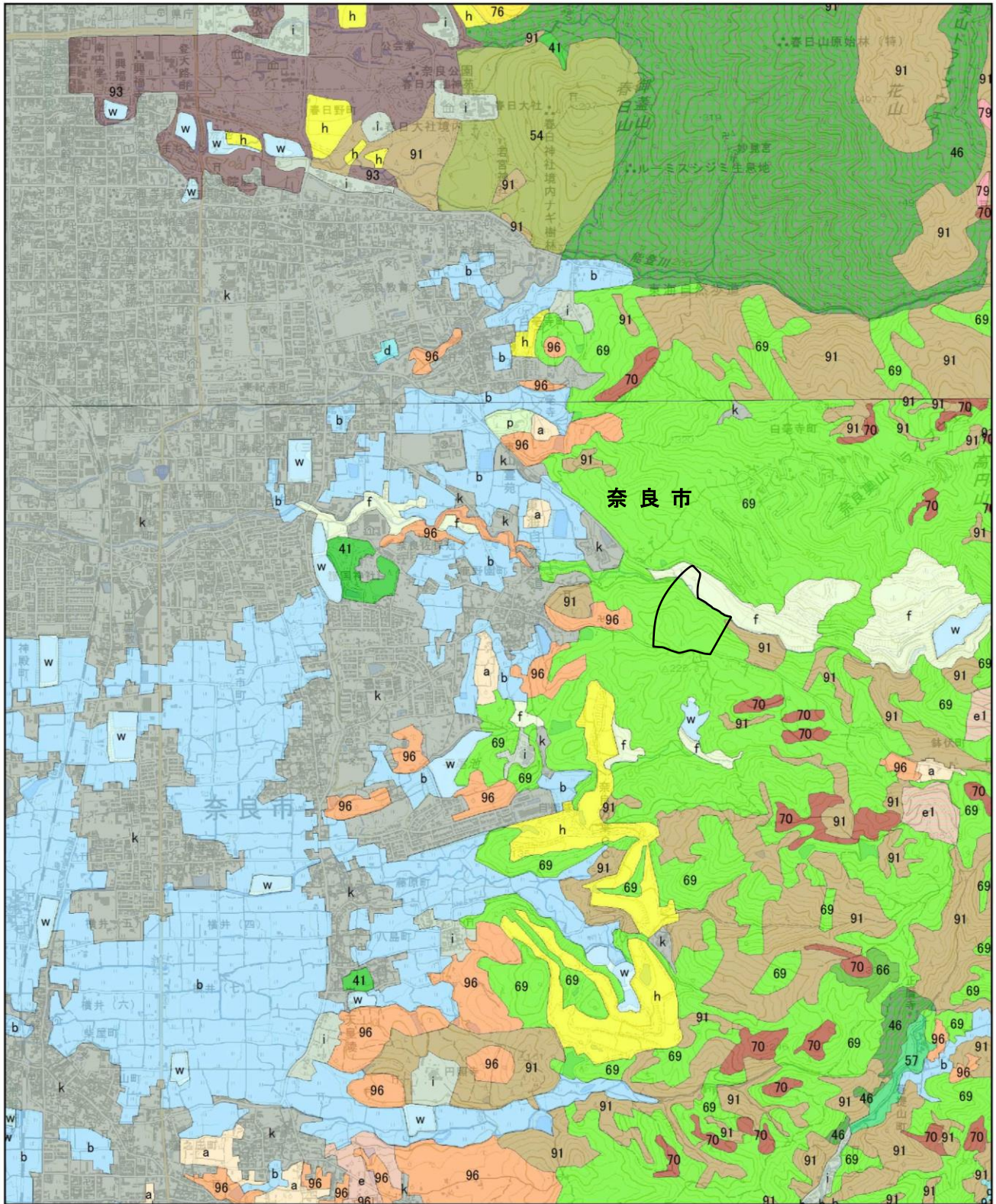
表 3-21 奈良市に記録がある重要な植物

カテゴリー	区分	種名
絶滅寸前種	①	マツバラシ、タニヘゴ、フモトシケシダ、サンショウモ、ヤナギヌカボ、サデクサ、ヌカボタデ、ヤマゴボウ、カザグルマ、オトコゼリ、ヘビノボラス、オニバス、アゼオトギリ、イシモチソウ、ミズタガラシ、ズミ（コリンゴ、コナシ）、ナガボノワレモコウ（コバナノワレモコウ）、タヌキマメ、ツルフジバカマ、ヨツバハギ、カラコギカエデ、ミヤマウメモドキ、カツラギグミ、ヒメビシ、ドクゼリ、ガガブタ、コケトウバナ、イトタヌキモ（ミカワタヌキモ）、タヌキモ、ヒメヨモギ、タカサゴソウ、ホソバニガナ、アギナシ、コバノヒルムシロ、スズラン、ノハナショウブ、エゾホシクサ、ヒナザサ、マイヅルテンナンショウ、ミクリ、ジソウ、セイタカハライ、サギスゲ、シズイ、クマガイソウ、ジンバイソウ、ヤマサギソウ、ヒトツボクロ
	②	ヤチスギラン、ヒキノカサ、ヒメタヌキモ、オケラ、マルバオモダカ、ヌマカゼクサ、コウボウ、ヒナラン、ツリシユスラン、コバノトンボソウ、ヤマトキソウ
	③	ミズニラ、イヨクジャク、コカラスザンショウ、ヤマジソ、ミヤコアザミ、ヤマトミクリ
絶滅危惧種	①	ヤマドリゼンマイ、カミガモシダ（ヒメチャセンシダ）、オクタマシダ（アオガネシダモドキ）、オオアカウキクサ、マツグミ、オオバヤドリギ、ジュンサイ、ヒメコウホネ（広義）、ヒツジグサ、マツモ、カワラケツメイ、マキエハギ、ナンテンハギ、ウドカズラ、イワナシ、クリソウ、クロミノニシゴリ、アイナエ、フデリンドウ、イヌセンブリ、ヒメナミキ、オオヒキヨモギ、ノタヌキモ、サワギキョウ、オグルマ、ヘラオモダカ、ホソバミズヒキモ、ユウスゲ（キスゲ）、ホソバシュロソウ、ヒナノシャクジョウ、ミノボロ、ウキシバ、オオアブラススキ、アズマズゲ、カタスゲ、センダイスゲ、サトヤマハリスゲ、ノグサ、コシンジュガヤ、シュンラン、カキラン、ベニシユスラン、ミズトンボ、ムヨウラン、ジガバチソウ、ヒメフタバラン、アリドオシラン、ヨウラクラン
	②	タチモ、シソクサ、キヨスミウツボ、エビネ
	③	シオガマギク、ムラサキミミカキグサ
希少種	①	コヒロハハナヤスリ（フジハナヤスリ）、ミズワラビ、マツザカシダ、ホソバナライシダ（ナライシダ）、ミヤコヤブソテツ、ハコネシケチシダ、オオヒメワラビモドキ、ヒカゲワラビ、シリブカガシ、ヒノキバヤドリギ、ニオイタデ、キバナイカリソウ、ミズオトギリ、モウセンゴケ、コイヌガラシ、オオウラジロノキ、ヒメヘビイチゴ、ヤマイバラ、アズキナシ（ハカリノメ）、コショウノキ、コガンピ、ゴキヅル、ミズマツバ、ケヤマウコギ（オニウコギ）、ヒメノダケ、イワカガミ、カラタチバナ、リュウキュウマメガキ、タチカモメヅル、スズサイコ、コイケマ、メハジキ、イヌノフグリ、カワヂシャ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ゴマギ（ゴマキ）、ヤマホタルブクロ、サワシロギク、ヤナギスブタ、ミズオオバコ、ノカンゾウ、ミズギボウシ、ヤマユリ、コメガヤ、チャボチヂミザサ、コガマ、イトハナビテンツキ、アゼテンツキ、コイヌノハナヒゲ、ヒメホタルイ、ギンラン、サイハイラン、ツチアケビ、ミヤマウズラ、コクラン、アオフタバラン、オオバノトンボソウ（ノヤマトンボソウ）
	②	クチナシグサ（カガリビソウ）、ヌマダイコン、テイショウソウ、イトイヌノハナヒゲ、ムギラン
	③	ミズスギ、アオネカズラ、ミゾコウジュ（ユキミソウ）、ヒヨクソウ
情報不足種	①	コブシ、ヤブサンザシ、チョウジソウ、コムラサキ
注目種	①	ミヤコカナワラビ、ムジナモ
郷土種	①	知足院ナラノヤエザクラ（ナラザクラ、ナラヤエザクラ）

注) 1. 出典資料における種毎の「県内の分布地」から、奈良市における確認種を抽出した結果である。
 2. 情報不足種とは、現時点ではランクを判定するだけの情報が得られていないが、今後の情報蓄積に伴って上位のカテゴリー（絶滅種、絶滅寸前種、絶滅危惧種、希少種）に移行する可能性がある種である。
 3. 郷土種とは、県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種である。

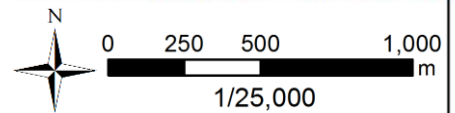
※区分 ①：現在生育していることが確認されている種。
 ②：標本記録により過去に生育していたことが確かであるが、現在の生育状況が不明、あるいは、市町村史などにより報告され、かつ生育していたと考えられるが、現在の生育状況が不明な種。
 ③：標本記録により過去に生育していたことが確かであるが、生育立地が消失したり、近年全く確認されないなどの状況から、絶滅したと考えられる種。

出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物(奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編)」(平成20年、奈良県)



凡例

□ : 対象事業実施区域



出典：「第6回、7回自然環境保全基礎調査 植生調査（奈良、大和郡山）」
 （環境省自然環境局生物多様性センターウェブサイト）

図 3-9(1) 対象事業実施区域周辺の植生図

凡例

凡例色 植生図凡例番号 統一凡例名






























	41, アラカシ群落
	46, カナメモチーコジイ群集
	54, ナギ群落
	57, イロハモミジーケヤキ群集
	58, ケヤキームクノキ群集
	66, シイ・カシ二次林
	69, アベマキーコナラ群集
	70, モチツツジーアカマツ群集
	76, ススキ群団 (V I I)
	77, シバ群団 (V I I)
	79, 伐採跡地群落 (V I I)
	91, スギ・ヒノキ・サワラ植林
	93, クロマツ植林
	96, 竹林
	127, アカメガシワーカラスザンショウ群落
	a, 畑雑草群落
	b, 水田雑草群落
	c, 放棄畑雑草群落
	d, 放棄水田雑草群落
	e, 果樹園
	e1, 茶畑
	f, 路傍・空地雑草群落
	h, ゴルフ場・芝地
	i, 緑の多い住宅地
	k, 市街地
	L, 工場地帯
	m, 造成地
	p, 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	w, 開放水域

図 3-9 (2) 対象事業実施区域周辺の植生図 (凡例)

(3) 生態系

「生物多様性なら戦略」(平成25年、奈良県)によると、奈良県の生態系は、森林の生態系、里地里山の生態系、河川・ため池の生態系、都市部の生態系に大きく分類される。

対象事業実施区域及びその周辺は、アベマキ-コナラ群集やモチツツジ-アカマツ群集等の二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林や竹林等の人工林からなる森林の生態系と、岩井川や丸尾池といった水域からなる河川・ため池生態系で構成されている。

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観の状況

1) 景観資源

対象事業実施区域周辺の景観資源の分布状況を表 3-22～表 3-25及び図 3-10に示す。

対象事業実施区域の北西側には、「まほろば眺望スポット百選」（平成21年3月、奈良県）に選定されている白毫寺、西側には奈良市の指定史跡である古市方形墳がある。北西側には五色椿が自然的景観資源として挙げられる。また、対象事業実施区域とその周辺は大和青垣国定公園に指定されている。

表 3-22 歴史的景観資源の概要（世界遺産）

番号	名称	国宝・重要文化財（建造物）	その他の指定状況
1	東大寺	東大寺廻廊	奈良県指定建造物 「東大寺真言院」 「東大寺戒壇院戒壇堂」 「東大寺二月堂湯屋」 国指定史跡 「東大寺旧境内」 「東大寺東南院旧境内」
		東大寺開山堂	
		東大寺勸進所経庫	
		東大寺金堂（大仏殿）	
		東大寺五輪塔	
		東大寺三昧堂（四月堂）	
		東大寺鐘楼	
		東大寺大湯屋	
		東大寺中門	
		東大寺転害門	
		東大寺東西楽門（西）	
		東大寺東西楽門（東）	
		東大寺南大門	
		東大寺二月堂	
		東大寺二月堂参籠所	
		東大寺二月堂仏餉屋（御供所）	
		東大寺二月堂閼伽井屋（若狭井屋）	
		東大寺念仏堂	
		東大寺法華堂	
		東大寺法華堂経庫	
東大寺法華堂手水屋			
東大寺法華堂北門			
東大寺本坊経庫			
2	興福寺	興福寺五重塔	国指定史跡 「興福寺旧境内」
		興福寺三重塔	
		興福寺大湯屋	
		興福寺東金堂	
		興福寺南円堂	
		興福寺北円堂	
3	春日大社	春日大社本社	奈良市指定建造物 「春日大社桂昌殿」 「春日大社四脚門」 奈良県指定建造物 「春日大社貴賓館（旧社務所）」 国指定史跡 「春日大社境内」
		春日大社摂社若宮神社	
		旧春日大社板倉（円窓）	
B	春日山原始林	—	国指定特別天然記念物 「春日山原始林」
4	元興寺	元興寺極楽坊五重小塔	奈良県指定建造物 「元興寺極楽坊旧庫裏」 国指定史跡 「元興寺極楽坊境内」 「元興寺小塔院跡」 「元興寺塔跡」
		元興寺極楽坊禅室	
		元興寺極楽坊東門	
		元興寺極楽坊本堂	

注) 番号は図 3-10に対応している。

出典：「国指定文化財等データベース」（文化庁ウェブサイト）

「奈良市の指定文化財（奈良市教育総務部）」（奈良市ウェブサイト）

「県指定文化財一覧（奈良県教育委員会事務局）」（奈良県ウェブサイト）

表 3-23 歴史的景観資源の概要（史跡・名勝）

番号	分類	名称	所在地
5	国指定史跡	春日山石窟仏	奈良市高畑町
6		赤土山古墳	天理市櫛本町
7		地獄谷石窟仏	奈良市高畑町
8		頭塔	奈良市高畑町
9		北山十八間戸	奈良市川上町
10		鶯塚古墳	奈良市春日野町
11	国指定名勝	依水園	奈良市水門町
12		旧大乘院庭園	奈良市高畑町
F		奈良公園	奈良市登大路町・高畑町・春日野町・雑司町
13	奈良市指定史跡	野神古墳	奈良市南京終町
14		古市方形墳	奈良市古市町
15		五つ塚古墳群	奈良市山町
16	天理市古墳	東大寺山古墳	天理市櫛本町
17		ウワナリ古墳	天理市石上町
18		石上大塚古墳	天理市石上町
19		御墓山古墳	天理市上総町

注) 番号は図 3-10に対応している。

出典：「国指定文化財等データベース」（文化庁ウェブサイト）

「奈良市の指定文化財（奈良市教育総務部）」（奈良市ウェブサイト）

「古墳（天理市教育委員会）」（天理市ウェブサイト）

表 3-24(1) 歴史的景観資源の概要 (建造物)

番号	名称	国指定建造物	その他の指定建造物		所在地
		国宝・重要文化財(建造物)	奈良県指定建造物	奈良市指定建造物	
20	旧帝国奈良博物館本館	旧帝国奈良博物館本館	—	—	奈良市登大路町
21	旧奈良県物産陳列所	旧奈良県物産陳列所	—	—	奈良市春日野町
22	興福院	興福院客殿	興福院本堂 興福院大門	興福院霊屋	奈良市法蓮町
23	今西家書院	今西家書院	—	—	奈良市福智院町
24	手向山神社	手向山神社境内社 住吉神社本殿 手向山神社宝庫	手向山神社	—	奈良市雑司町
25	十輪院	十輪院石仏龕 十輪院南門 十輪院本堂	十輪院御影堂	—	奈良市十輪院町
26	新薬師寺	新薬師寺鐘楼 新薬師寺地蔵堂 新薬師寺東門 新薬師寺南門 新薬師寺本堂	—	—	奈良市高畑町
27	崇道天皇社	崇道天皇社本殿	—	—	奈良市西紀寺町
28	正倉院	正倉院正倉	—	—	奈良市雑司町
29	正暦寺	正暦寺福寿院	—	—	奈良市菩提山町
30	藤岡家住宅	藤岡家住宅	—	—	奈良市元興寺町
31	奈良女子大学(旧奈良女子高等師範学校)	奈良女子大学(旧奈良女子高等師範学校)	—	—	奈良市北魚屋東町
32	日本聖公会奈良基督教会	日本聖公会奈良基督教会	—	—	奈良市登大路町
33	般若寺	般若寺経蔵 般若寺十三重塔 般若寺楼門	般若寺本堂	—	奈良市般若寺町
34	不退寺	不退寺塔婆 不退寺南門 不退寺本堂	—	—	奈良市法蓮町
35	福智院	福智院本堂	—	—	奈良市福智院町
36	蓮長寺	蓮長寺本堂	—	—	奈良市油阪町
37	傳香寺	傳香寺本堂	傳香寺表門		奈良市小川町
38	和爾下神社	和爾下神社本殿	—	和爾下神社(天理市文化財)	天理市櫛本町

注) 番号は図 3-10に対応している。

出典：「国指定文化財等データベース」(文化庁ウェブサイト)

「奈良市の指定文化財(奈良市教育総務部)」(奈良市ウェブサイト)

「県指定文化財一覧(奈良県教育委員会事務局)」(奈良県ウェブサイト)

「文化財(天理市教育委員会)」(天理市ウェブサイト)

表 3-24(2) 歴史的景観資源の概要（建造物）

番号	名称	奈良県指定建造物	奈良市指定建造物	所在地
39	漢国神社	漢国神社本殿	—	奈良市漢国町
40	阿弥陀寺	阿弥陀寺	—	奈良市南風呂町
41	安養寺	安養寺本堂	—	奈良市鳴川町
42	崇徳寺	崇徳寺	—	奈良市大豆山町
43	大神神社攝社 率川神社	大神神社攝社 率川神社坐大神御子神社本殿	—	奈良市本子守町
44	氷室神社	氷室神社本殿	—	奈良市春日野町
		氷室神社表門及び東西廊	—	
45	金鉢寺	金鉢寺本堂	—	奈良市十輪院町
46	旧細田家住宅	旧細田家住宅	—	奈良市雑司町
47	弘仁寺	弘仁寺本堂	—	奈良市虚空蔵町
48	五劫院	五劫院本堂・表門	—	奈良市北御門町
49	圓照寺	圓照寺圓通殿	—	奈良市山町
50	常德寺	常德寺本堂	—	奈良市北向町
51	徳融寺	徳融寺本堂	徳融寺毘沙門堂	奈良市鳴川町
52	旧正法院家住宅 (吉城園)	旧正法院家住宅(吉城園)	—	奈良市登大路町
53	志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス)	志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス)	—	奈良市高畑町

注) 番号は図 3-10に対応している。

出典：「奈良市の指定文化財(奈良市教育総務部)」(奈良市ウェブサイト)
 「県指定文化財一覧(奈良県教育委員会事務局)」(奈良県ウェブサイト)

表 3-24(3) 歴史的景観資源の概要（建造物）

番号	名称	奈良市指定建造物	所在地
54	嶋田神社	嶋田神社本殿	奈良市八島町
55	鏡神社	鏡神社本殿	奈良市高畑町
56	好田家住宅	好田家住宅	奈良市高畑町
57	青田家住宅	青田家住宅	奈良市高畑町
58	称念寺	称念寺本堂	奈良市東木辻町
59	白毫寺	白毫寺本堂	奈良市白毫寺町
60	八幡神社	八幡神社中門	奈良市東九条町
61	旧最勝院	旧最勝院玄関、表門及び塀重門	奈良市高畑町
62	森家住宅	森家住宅	奈良市南城戸町
63	在原寺跡	在原寺跡(天理市文化財)	天理市櫛本町

注) 番号は図 3-10に対応している。

出典：「奈良市の指定文化財(奈良市教育総務部)」(奈良市ウェブサイト)
 「文化財(天理市教育委員会)」(天理市ウェブサイト)

表 3-25 自然的景観資源の概要

記号	分類	名称	所在地
A	国定公園	大和青垣国定公園	奈良市、天理市、桜井市
B	国指定 特別天然記念物	春日山原始林	奈良市春日野町
C	国指定 天然記念物	ルーミスジミ生息地	奈良市春日野町
D		春日神社境内ナギ樹林	奈良市春日野町
E		知足院ナラノヤエザクラ	奈良市雑司町
F	国指定名勝	奈良公園	奈良市登大路町・春日野町・高畑町・雑司町
G	奈良県指定 天然記念物	東大寺鏡池棲息ワタカ	奈良市雑司町 東大寺境内
H		正暦寺境内のコジイ林	奈良市菩提山町
I		五色椿	奈良市白毫寺町
J	奈良市指定 天然記念物	浄教寺のソテツ	奈良市上三条町
K		春日大社境内のイチイガシ 巨樹群	奈良市春日野町
L		慈眼寺のカキノキ	奈良市北小路町
M		興隆寺町八坂神社社叢	奈良市興隆寺町
N		春日大社境内のウドカズラ 自生地	奈良市春日野町
	春日大社境内のナギ巨樹		

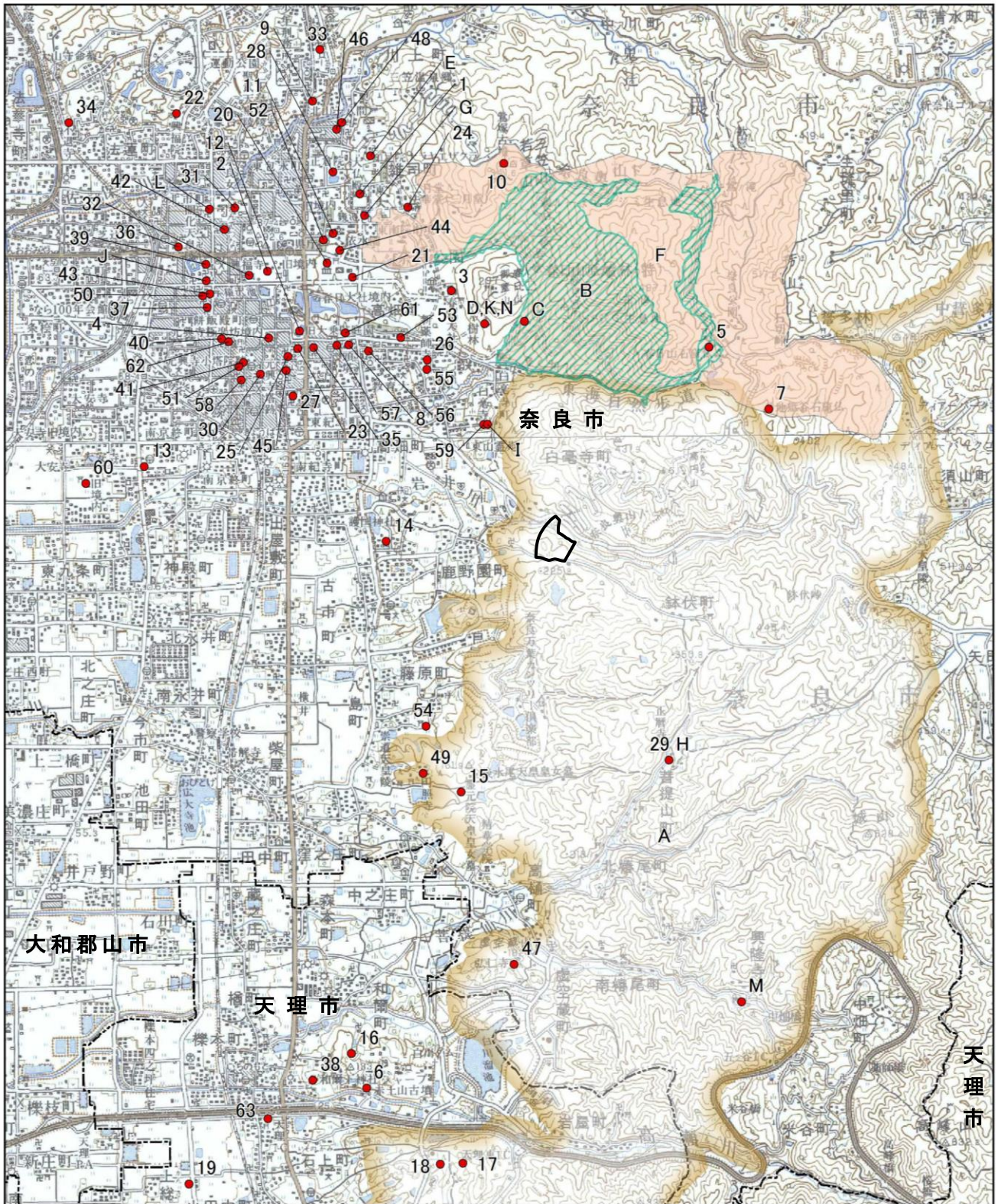
注) 記号は図 3-10に対応している。

出典: 「奈良県自然公園等区域図」(平成17年3月、奈良県)

「国指定文化財等データベース」(文化庁ウェブサイト)

「奈良市の指定文化財(奈良市教育総務部)」(奈良市ウェブサイト)

「県指定文化財一覧(奈良県教育委員会事務局)」(奈良県ウェブサイト)



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 市界
- : 景観資源地点
- : A 大和青垣国定公園
- : B 春日山原始林
- : F 奈良公園

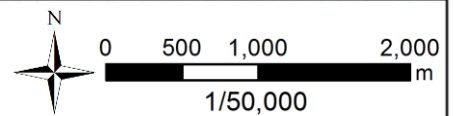


図 3-10 景観資源位置図

2) 眺望点

眺望点と眺望状況を表 3-26に、対象事業実施区域を含む眺望点位置図を図 3-11に示す。

眺望点是对象事業実施区域の北西方向に集中している。また、対象事業実施区域の付近には、白毫寺からと奈良奥山ドライブウェイからの眺望が見込まれる。

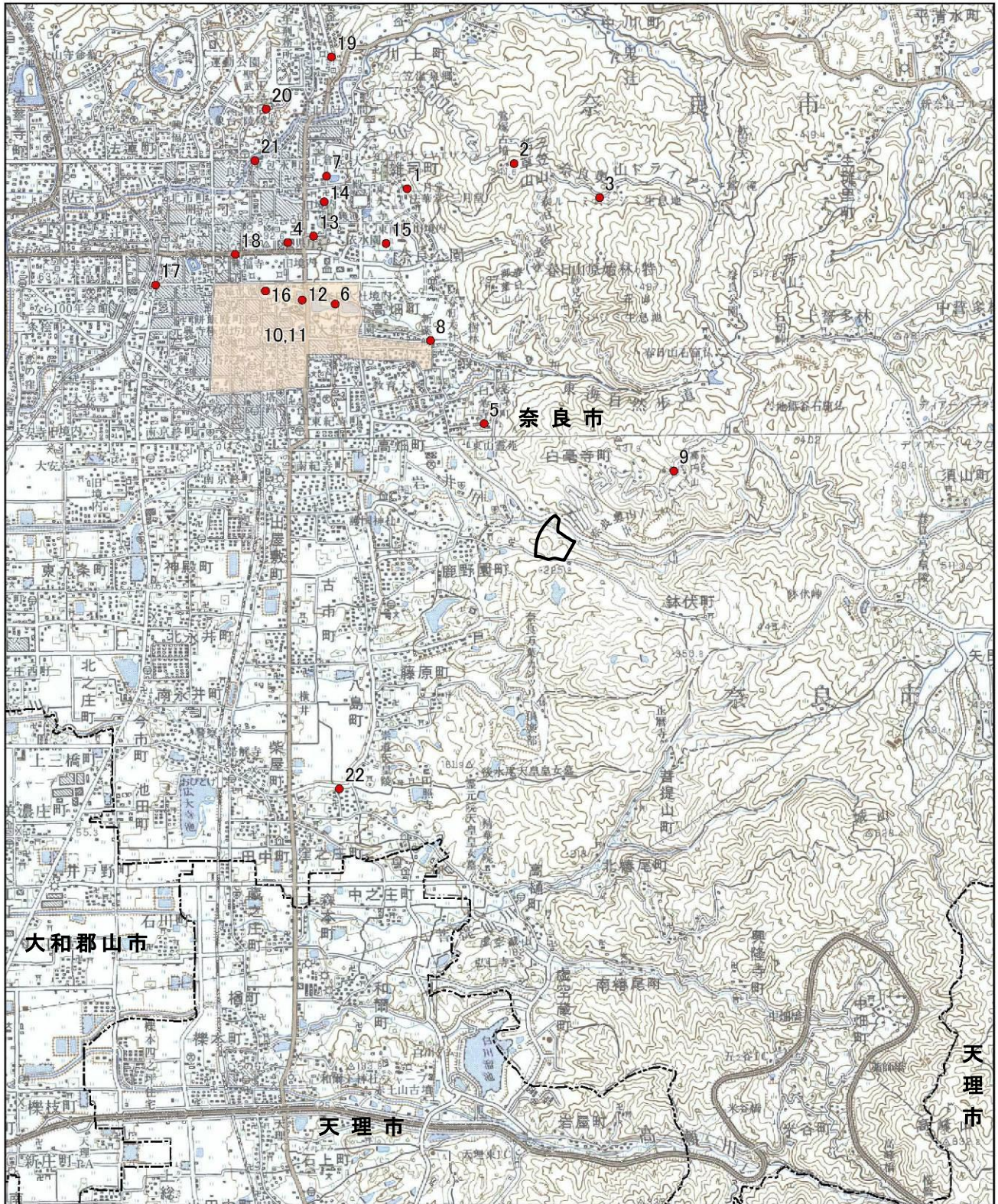
表 3-26 眺望点と眺望状況

番号	眺望点及び眺望の状況
1	東大寺二月堂
2	若草山
3	奈良奥山ドライブウェイ
4	県庁屋上
5	白毫寺周辺
6	鷺池
7	大仏池
8	旧柳生街道
9	奈良奥山ドライブウェイ展望所から奈良盆地への眺望
10	奈良町から興福寺五重塔への眺望
11	奈良町から春日山等の山並みへの眺望
12	荒池池畔から興福寺五重塔、御蓋山、春日山への眺望
13	知事公舎前道路から若草山への眺望
14	東大寺戒壇院前道路から東大寺戒壇堂への眺望
15	春日野園地及び浮雲園地から若草山、東大寺大仏殿・南大門への眺望
16	猿沢池池畔から興福寺五重塔・南円堂への眺望
17	J R奈良駅を含む三条通から春日大社一の鳥居、御蓋山、春日山への眺望
18	近鉄奈良駅前を含む大宮通りから若草山への眺望
19	奈良阪（県道木津横田線）から東大寺大仏殿への眺望
20	西安の森、若草中学校付近から東大寺大仏殿、興福寺五重塔、若草山等の山並みへの眺望
21	一条通から転害門への眺望
22	山村町から奈良市街地、若草山等の山並みへの眺望

注) 番号は図 3-11に対応している。

出典：番号1～8 「まほろば眺望スポット百選個別情報」(奈良県ウェブサイト)

番号9～22 「奈良らしい眺望景観」(奈良市ウェブサイト)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市界
- : 眺望点

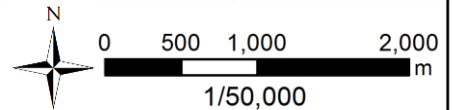


图 3-11 眺望点位置图

(2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況を図 3-12及び表 3-27に示す。

対象事業実施区域の北側には奈良奥山ドライブウェイ高円山コースが存在する。
また、対象事業実施区域とその周辺は大和青垣国定公園に指定されている。

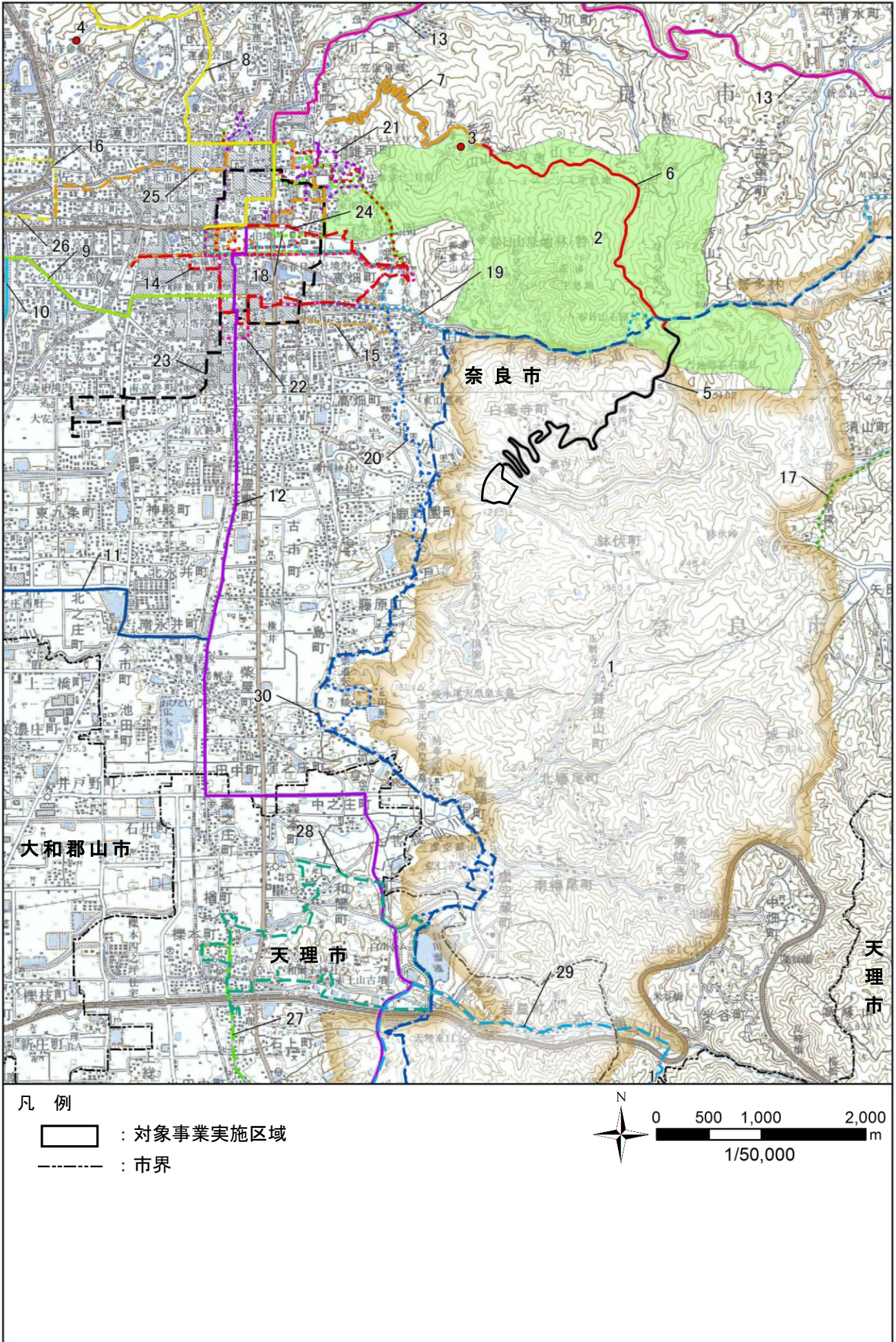















図 3-12 対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合い活動の場の分布

表 3-27(1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概要

分類	番号	記号	名称	概要
国定公園、 県立公園等	1		大和青垣国定公園	奈良盆地の東部の丘陵線を保護・整備するために昭和45年末に指定された公園である。
	2		奈良公園	木々に映える堂塔伽藍、若草に萌える芝生、鹿の群れ遊ぶ風情、「大仏と緑と鹿」で代表される公園。
	3		若草山	山全体が芝生でおおわれており、三つの笠を重ねたようなので三笠山とも言う。
キャンプ場	4		奈良市黒髪山キャンプフィールド	自然に囲まれた奈良市のキャンプ場。
ドライブ ウェイ	5		奈良奥山ドライブウェイ 高円山コース	世界遺産の「春日山原始林」を挟んで、「若草山」「高円山」という大和青垣を代表する山々を結ぶドライブウェイ。
	6		奈良奥山ドライブウェイ 奈良奥山コース	
	7		奈良奥山ドライブウェイ 新若草山コース	
サイクリング コース	8		補助幹線ルート (京都方面→近鉄奈良駅)	せんとの道ルートと上ツ道ルート、柳生街道ルート等へとつながるルート。東大寺の転害門の前を通る。
	9		三条ルート	三条通りに沿って走る市街地ルート。
	10		北下ツ道ルート	藤原京から平城京をまっすぐ繋ぐ古代の官道「下ツ道」の近くを通る。
	11		九条ルート	平城京条坊図にある「九条大路」に沿って走るルート。
	12		上ツ道ルート	古道「上ツ道」に沿っていにしえの面影が残る町並みを楽しめる。
	13		柳生街道ルート	柳生新陰流で知られる剣聖ゆかりの里、柳生へとつながる。

注) 番号は図 3-12に対応している。

出典：「自然公園の概要（奈良県くらし創造部）」（奈良県ウェブサイト）
 「奈良公園の概要（奈良県県土マネジメント部）」（奈良県ウェブサイト）
 「黒髪山キャンプフィールド」（奈良市ウェブサイト）
 「奈良奥山ドライブウェイ」（新若草山自動車道株式会社）
 「ならクル」（奈良県県土マネジメント部）
 「奈良県自然公園等区域図」（平成17年3月、奈良県）

表 3-27(2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概要

分類	番号	記号	名称	概要
ハイキングコース	14	奈良公園周辺 奈良の神社仏閣、国宝満載 東大寺コース	興福寺、東大寺をはじめ奈良を代表する神社仏閣を巡る。
	15	奈良公園周辺 奈良の神社仏閣、国宝満載 新薬師寺コース	
	16	佐紀路・西ノ京 佐紀盾列古墳群と西ノ京の国宝探訪 佐紀路コース	法華寺、海龍王寺や佐紀盾列古墳群を訪ねる。
	17	古事記を編纂した天才的文官 太安万侶の墓へ	大和茶の名産地としても知られる田原を訪れるコース。
	18	奈良の中心地、国宝の宝庫をめぐる散策路	国宝を巡るコース。
	19	剣豪たちの歩いた柳生みち	奈良町と柳生陣屋を結ぶ「柳生みち」をたどるコース。
	20	悲恋の影姫伝説が残る、北・山の辺の道を歩く	新薬師寺、白毫寺、白川ダムなどを巡るコース。
	21	ますます訪ねたくなる東大寺	東大寺をじっくりまわるコース。
	22	ますますふれたくなる春日信仰 守られてきた信仰と文化にふれる	春日大社とならまち界隈を巡るコース。
	23	---	ますます身近になる弘法大師 若き日の足跡を訪ねる	弘法大師空海が遣唐使として唐の都長安に留学する 31歳までの勉学の足跡をたどる。
	24	---	ならまちルート ますます恋する万葉集	奈良公園からならまち周辺を巡るコース。
	25	---	佐保川ルート ますます恋する万葉集	佐保川沿いを通り、東大寺周辺を巡るコース。
	26	---	平城宮跡ルート ますます恋する万葉集	平城宮跡から奈良市庁舎前庭の万葉歌碑までを巡るコース。
	27	---	上街道コース	宿場町の櫛本町と丹波市町、織田家の城下町だった柳本町を結ぶルート。
	28	---	はにわの里コース	天理市櫛本町・和爾町近辺を巡るコース。
	29	---	大国見山展望コース	大国見(国見山)の山頂からは、眼下に天理市街と奈良盆地が開け、生駒山から奈良奥山方面までを一望することができる。
	30	---	東海自然歩道	東京の明治の森、高尾国立公園から大阪の明治の森、箕面国立公園まで延長1343.2km。

注) 番号は図 3-12に対応している。

出典: 「歩く・なら」(奈良県観光局)

「散策の路」(天理市観光協会)

「東海自然歩道」(平成17年5月、奈良県)